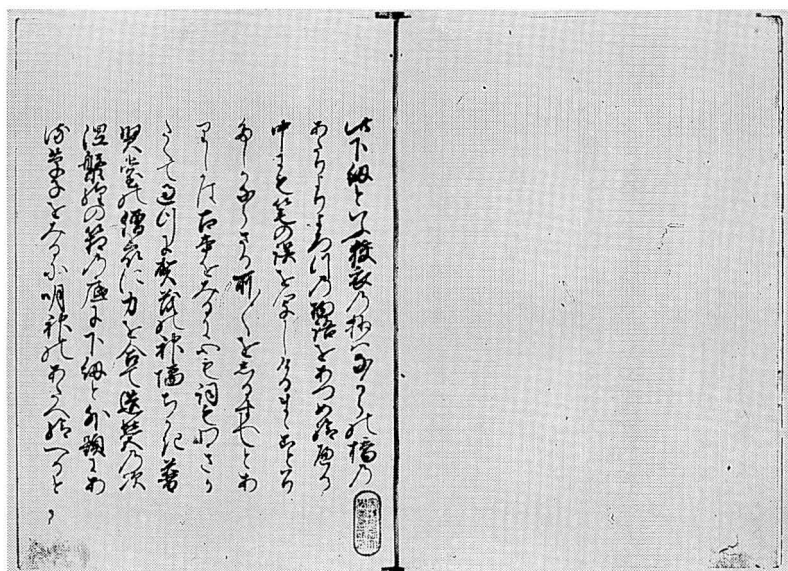
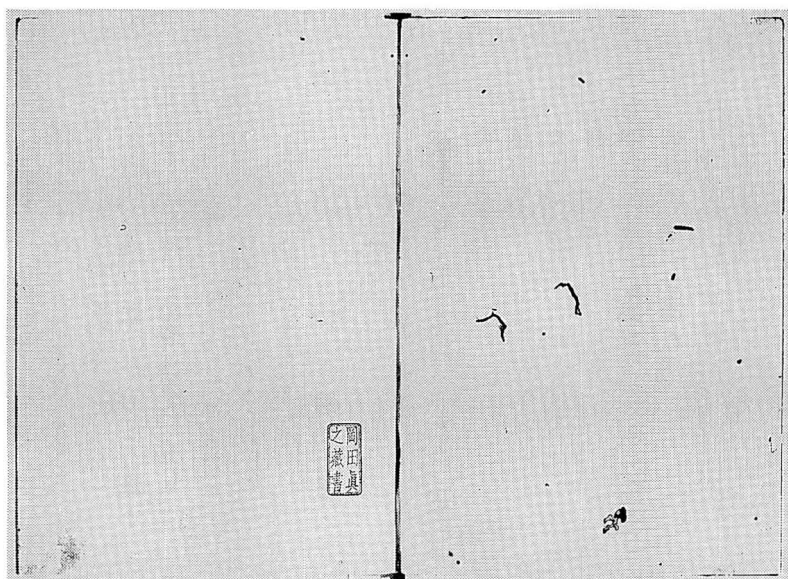


常磐松文庫蔵『狭衣下紐』寛佐奥書本

奥  
田  
勲







後中一てゆりたり杵荒源氏物語の  
 口より人々にはあらまへて一  
 糸浮園を獲てと歌ひよりあらまへて  
 大なる歌なり一糸品（道）を院殿の  
 うらやまへてふさふさうては人々  
 らへてわらへりともわらへり  
 玉ふ十八年初より事なをえり

後中平醒

後中系

宇多天皇 五十九

醍醐天皇 廿一

朱雀院 廿一

村上天皇 廿一

冷泉院 廿三

國融院 廿四

一條院 廿六

後朱雀院 廿九

花山院 廿五

三條院 廿七

小一條院 元祿即位

後一條院 廿八 後冷泉院 卅

二條院 長徳 三 源氏物語 他 寛弘

顯光 兼任右大臣 時右大臣 兼任右大臣 於也

堀河殿 以物語より云へる融院次二の

みより

師輔 右大臣 九条殿 伊平 兼任公

兼通 大政大臣 兼任公

今上 後中系也

兼通 堀河殿

兼通 堀河殿

兼通 堀河殿

兼通 堀河殿

兼通 堀河殿

兼通 堀河殿

兼通 堀河殿

兼通 堀河殿

兼通 堀河殿

兼通 堀河殿



三々よりお入りのことなかり

一とわめくふふりいづろふやばま

みのらるる

一室のやーり川井お初へを添う

一ほうこの松思と歌えんもなまきよわ

えと二葉ら姉妹兄弟れしくわと

とて西宮の更替といふ智といひ

一とてあまると二花おしりしと

一とけりもあめの地ふれりやわ

一花院のゆいんはさるやうにすみ

うねはると云ふ事なり

一花をきれいとうと花衣の母で

一花院 お改名 後一花院の祖父

一花門を帝の子歌ふまのいしとあ

一今と花院一とまきとつたのれ

はさる

一うね中にも 堀川屋のあまのり

うね親りたてえとつた花とまき

まりふ事とまきり男をさへう枝  
衣のり

一花中ね 花衣の母屋へ六道をば

りて顔てにうねるなり

一花十六 三千摩訶切のいへ大通智

勝佛とて仏りくくは仏いと

五位の付中十六なり花衣の母屋へ

一花十六 三千摩訶切のいへ大通智

勝佛とて仏りくくは仏いと

五位の付中十六なり花衣の母屋へ

一花十六 三千摩訶切のいへ大通智

勝佛とて仏りくくは仏いと

五位の付中十六なり花衣の母屋へ

一花十六 三千摩訶切のいへ大通智

勝佛とて仏りくくは仏いと

五位の付中十六なり花衣の母屋へ

一花十六 三千摩訶切のいへ大通智

勝佛とて仏りくくは仏いと

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

是為帝元 訓行

一應を以て了る事なきを

上

一、子年とあり候は、いづれ、癸丑

和氣大和

長江のほとり

此書の形も、古くは、そのふん

多

一、  
二、

一、  
二、

一 花畑 花畑のまゝ 冬 花畑

一夢維新 花唐金糸

二芳度ニハフ國ニクニ公ニキミ女ニメ凡ニソレ統ニツ御ニミコト也ニヤ云ニイフ

二、國區、未修、年、作、修、

無所不為

一、如豆文、

一、可也の書者、國子やてい

一、

河うやうと

一わろもろに 改題 日本紀下巻才一

方之天推族

一源氏文 先帝園融院御親王御母

細云依 粧衣と云ふこと

父の母 父母の母

Chlorine

[illegible]

James Thompson

五

漢文を事にする所は、

あつたてのうた

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

清序元恒

[illegible]

又

第七條 子と父の姓名

諸方家  
の  
言  
を  
採  
り  
て

一、五、下、年、方、所、記、一、要





よわきう

[illegible]

筆より始る

一はあり—ふもくをききし

サカサマの文の中は、**漢文**と云ふ所の  
文の類に、**文**の中や、**文**の中

一、二、三、四、五

一筆

一丁よりなりてり

三

一帯のふいふ  
川をわたり

一、たのしみいじろ あつじやん中く

吾もさういふと能く店のかま

[illegible]

Smallman/PK on PK (Q = Q<sub>0</sub> - 1)

一又三 久し海をくぐりて

一 中 義 子 子  
と 義 子 妹 子 子

17. Can you give me a list of the names of the people who were in the room when you were there?

此風不可始民又不知色也

故に時勢に應ずるなりと云ふ人々多し

此は退治の要なりと云ふ

如左

[illegible]

きふ二不一はやふなり

三  
子  
久  
不  
如

由七全下  
字最委

...

原 常春のやうな草に似る

三

大正 商店中物云々其一の

痛云一受之乎心中國言者

人表

齊東野語

石渠寶笈

事用中符 九大明子 乃重子也

上林水區  
原中

作子

一こゝろの人よ 命をばし 独り  
との勅をり

一中勢文

中勢 弘徽殿へ大内をうけ入  
御君 御前へ大内をうけ入のまに  
給ふまじうなり

一中にも まゐるまゐる 御前へ  
給ふまじうなり

一あひとあひとあひとあひと勅をり

一いとうりぬ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ

弘徽殿とういむんせ 弘徽殿とういむんせ



一 我々もまた人色をうける所なり

一 予は世をうくる

一、世に門下を以てて

多子多孫

一雲  
一雲

久事

二六 子規 廿二 文 門 母 后 と ころ

いふは、  
入る方の易をたし、  
之れ

男の弔子と名をなす

よき世をたもてむとてあふく

うやみの衆をまじへて女衆ひらるる

文王の命に答へて

一、此山門前、江邊、舟楫、常有。

むすむすとして

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

一、上層より  
 二、中層より  
 三、下層より

物と云ふを信ずるなりと云ふ

五ノ下ノ一ノ手勢也

一、五十七三二

工部局工務處

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

三  
引

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

中島

一きりひて 唐の相好ふと少思ふ

是以前之書より何事もなし

仁孝の御事才の外珍重なりとあり

張子之

一、書の名は三つありて

三

一いふは 只に一男とあり

一はく せんがふたつ 異年ありぬ

一中ねし せん 草野とありぬ

一みづり せん 女二女とありぬ

一せんとの四年也

一はく 女二のひす 祖とありぬ

一武藏のむす 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一はく せん 徳氏とありぬ

一、さういふ筆のまゝでもその考へあり  
 正しくいふのでない

一 竜うらなれ けけさるた いとて 膝う  
みねとあふ 痛くうめん

一、我々が、この世に生れてゐる間に、  
 出来るだけ、人の心を、

一身色如金山 端嚴甚微妙 法華序品  
 釈さばたと流ぬんよとの端一白毫  
 相のまゝくち方百八千の界と照

此の所を方々園との所は方相の  
しきすといふ文あり

一なりさうなりはふ 又都率天  
のしんうとうふしと

一、三月のそ  
一、ふひ鳥  
極暑のふひ鳥の三巻

2 あり 石 華 毒  
人 心 中 く お も ひ あり さ

東くのみひをたふさく

胸如火赤く 多くの病人とすべし如き如  
不音とく

一 蘇漢 漢中三 漢氏文公

下 女と男との源氏物語  
2冊あり

一、我らより、室の好の態、昔よりたすき  
也、我を年へて、源氏より、夢のうらと

一 若くは 吉野川若くは河川

一、乃里 引、事勅

[illegible]

一 求むるを種族の心と不知念と

一人も門の者と同年を共たは

音義

一源氏のみとてふ人しつてせめてしつ

しつてふ人しつて

一右大臣 南朝天子とて名お達を

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

女の子は

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

一右大臣の 貴はるのじとてふ人しつ

何の故にほしきや

一母天 王女はよりかゝる男氣を

母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

何の故にほしきや

一母天 王女はよりかゝる男氣を

母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より

一母天は洞より 母天は洞より



りの方より下と見ゆへにきき  
しと長門守殿よりしと中務文の  
少ねれにのく大納言殿大納言と  
二条よりしと南法ははりすととま  
えおすりかきり

一 中々新殿のししと春夜のし  
防のしとふ殿よりしととま  
まふりしととま

一 江戸より 御殿中のオトとま

一 和へ招きしと 秋よりしととま  
と和りしととましととましと  
とましととましととましと  
とましととましととましと

一 江戸より 春夜よりしととま  
ととましととましととましと

一 中々子夜へ通文のしととま  
ととましととましととましと  
ととましととましととましと  
ととましととましととましと

りの方より

わしととましととましととましと  
ととましととましととましと  
ととましととましととましと

一 春夜よりしととま  
ととましととましととましと  
ととましととましととましと

一 江戸より 春夜よりしととま  
ととましととましととましと  
ととましととましととましと

一 江戸より 春夜よりしととま  
ととましととましととましと  
ととましととましととましと

ととましととましととましと

一 江戸より 春夜よりしととま  
ととましととましととましと  
ととましととましととましと

一 江戸より 春夜よりしととま  
ととましととましととましと  
ととましととましととましと

一 江戸より 春夜よりしととま  
ととましととましととましと  
ととましととましととましと

一 江戸より 春夜よりしととま  
ととましととましととましと  
ととましととましととましと

一 江戸より 春夜よりしととま  
ととましととましととましと  
ととましととましととましと

[illegible]

いづちの道にふれんとい

王人

一丁すゝめ 今やあらん人にて

わさやちんとのぶきやうをひき

一 三 五 七 九

と厚良夫の字のやうな奴

一せんせん 襟衣のきりひわく

一、山陰縣志

仁孝大文  
仁孝大文

飛鳥井末の母と乳母と

いふをきくは

くまの丸に江所を去る

はるの軍とて

一、三、五 供の音、供具とやうな

一々く源氏物語にうつるゝまゝに

上

一考  
と  
と

乳齒がよこへつた

一かゝると  
死を昇者と云ふ童めめめ

屋敷うみへと云ふり

一、此 多 く て 風 儀 や ま る に

牛乳とて今為す所の如く

新編のりて車

下と威儀は君と臣とを以て牛馬

色は黄く紅くなく

一柳子志人柳通子ハ海老会江又

とてはるれ車とあるとてし今あり

いさうしとまじりておちかたなり

一考をわらへるに考に制する

わが世のいかにあはれ

一、量の入と出の比

مجلسه اول

つとてえとまは續柄をよむわが

五車

一々を以ててんハ  
概々の四角くをたひ





あまのこころよりてとて人をとてとて  
つぎのまのまのれは車よりりりりり  
つぎのまのまのれは車よりりりりり

一それとて我の心は終て飛鳥井の  
まゝくわいの事さへ思へやめを  
狂歌の福作也

一とて 夢人の魂をその戸を叩き  
行く夢者の魂をその戸を叩き  
一我々の心や 乙女の心を満ちると也

以事類爲宗以文字爲

一物あり 死を昇るは昨より  
てことごとくは極楽とけり  
智恵のこころ

一、大補の者　　ひとの車にふくむ良  
一、むくまき　　假衣の如くふくまき

一わやー  
常々

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一わろは師ふあひなむうとまら

1. *Chrysomelidae*

れいふとある例の方のさしあが

ついでに、

うしうし早ふも長うそちの宿

3

一　るみけ　ねむりのふり

一 万葉集のうゑみまをてやみけ

昭は神くればともやえとも

一車より人を乗せたるものなり

三月三日

一 御車二条よりまゐりつゝ

一家のくちやうは六郎平

三三三

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 84

家の暑熱と云ふ

一 源氏のまをるる

一 せんごのへ 明の志局ととうり 神中

細きの痕と夢への心

此と夢をいふこと

一 せんごのへ せんごのへとてきり 神中

事と夢の心とにわかれ 神中とあつた

は 神中とあつた 神中とあつた

一 せんごのへ 風儀神中とあつた 神中

とあつた 神中

一 せんごのへ ひのめとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

一 せんごのへ 風儀神中とあつた 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへ

一 せんごのへ ひのめとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

とてきり

一 せんごのへ せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

一 せんごのへ せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

一 せんごのへ せんごのへとてきり 神中

せんごのへ

一 せんごのへ せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

せんごのへ

一 せんごのへ せんごのへとてきり 神中

せんごのへとてきり 神中

ふきう人ともんをぬすはすそ  
 十と(お)うきうその大やうわらわは  
 々物ろくきうとてきう高知とて  
 一きう 花を并たきうとてきう  
 うきうきうとてきう  
 一西の人 吉澤天かきん  
 源氏を定にきうとてきう一きうと  
 きうはきうきうきうきうきう  
 きうきうきうきうきう

一きうきう 東へきうきうきう  
 てきうきうきうきうきうきう  
 西へきうきうきうきうきう  
 けきうきうきうきうきう  
 一きうきう 東へきうきうきう  
 きうきうきうきう  
 一きうきう 東へきうきうきう  
 きうきうきうきうきうきう  
 きうきうきうきうきうきう

いききうきう  
 一きうきう 東へきうきう  
 一きうきう 東へきうきう  
 一きうきう 東へきうきう  
 一きうきう 東へきうきう  
 一きうきう 東へきうきう  
 一きうきう 東へきうきう  
 一きうきう 東へきうきう  
 一きうきう 東へきうきう  
 一きうきう 東へきうきう  
 一きうきう 東へきうきう

一源氏を定にきうとてきう一きうと  
 のきうきうきうきうきうきう  
 きうきうきうきうきうきう  
 きうきうきうきうきうきう  
 一きうきう 東へきうきうきう  
 きうきうきうきうきう  
 一きうきう 東へきうきうきう  
 きうきうきうきうきう  
 一きうきう 東へきうきうきう  
 きうきうきうきうきう

一 八んちや 顕隆 わつらうに源氏初海  
なかり格とくまんりや

一 夫のいふらうへ 勢の夜れふと一衆の

まをり初めると島や海まんり

とけつんりふるや飛を井とあひひや

一 夫のいふらうへ 勢の夜れふと一衆の

まをり初めると島や海まんり

とけつんりふるや飛を井とあひひや

一 夫のいふらうへ 勢の夜れふと一衆の

まをり初めると島や海まんり

とけつんりふるや飛を井とあひひや

一 夫のいふらうへ 勢の夜れふと一衆の

まをり初めると島や海まんり

とけつんりふるや飛を井とあひひや

一 夫のいふらうへ 勢の夜れふと一衆の

まをり初めると島や海まんり

とけつんりふるや飛を井とあひひや

一 夫のいふらうへ 勢の夜れふと一衆の

一 夫の事より勅書とて  
一 東院の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 先帝 式部卿 後三卿 官  
源氏宮 坊門上 源氏殿ノ北方成  
中宮ヲミマリ

宰相中將  
男子 武臣ノ御ミミヤリ  
今世第一殿中將似ナリ

外君 家重ノ居  
源氏御位ノ御ミミヤリ

系圖ハ式部卿ノ御ミミヤリ  
源氏御位ノ御ミミヤリ

一 夫の事より東院のいふらういとけす

一 夫の事より東院のいふらういとけす



平溪之系

一勢多し言は衣箱なり

一蟬鳴黃葉漢宮秋

一 ほうりく さまいふくやうさく

いすもあやうくぞ

一日の善の  
もまのたれ細く粘の

野上黄子人々々々々

一 我々が、

わくをなせをきそこのすき見ろ

五

一、の、い、ま、は、  
形、名、并、れ、小、家、と、云、

實乃大德也

一に、ヤスをりあへ

[illegible]

一いつの 煙草をふくふくす

ふふと源氏文のすく龍舟并た海

おはようございます

一海のふちを  
くぐる流と地を

しなううゆゑく 表へておて呉れ  
て下さるのを日々

一、  
物表の如くは、  
物表の如くは、

のふんともなりぬの人を

おと見物てゝ見すじとけゝみ

通なり

一 乃て

پیشہ و پستی

一、  
なまはい

多々子江にわく

一重ハヤ 義々人々を我方へ

わんすん

一、らゝを  
引く事

一花を  
みみたるに不似相々あり

国下はまのり

一年もたつた  
今のところ（新）

後斗部より

一 衣のつゆくまをうすす

ありありやありありの事だれよりあり  
 とも様衣のひふつともいふは  
 くへね多利きぬ中わくんとく  
 物事とはうさけやあらんと人  
 くさくさやあつとあつとあ  
 つつとあつとあつとあつとあ  
 ぬんとあつとあ

[illegible]

一をす 今整居の母のうゝおのち  
て細くさうさうちけりむの屋と  
音整れたの母今来またの母より

おとこはなまのうへに

孝廉子孫

一丁丁白 昨石親之是為女房

五言古詩

一書  
今奴素わうふれとくともあつ

母乳母をわんふくんと

今中一に於て

此の如く

人々を驚かす

一 膏之とる 燈石 燈石 車馬和

やうきとて心へ素戔嗚尊（素戔嗚尊）

一馬中 中馬云々云々云々



表裏に笑ふへやまづよとを  
 おのひらきとて

22.01.1941

一たびきつたあとの次、今坂虎太郎

১৫

一、后中文、今非素望、扣之中文。

芳房筆の草子人々

一いゝもの  
本懐の細いもの

Handwritten: *St. John's*

よのつら

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

五

1875-1876

うらとそわわうう

又此乃其廣之人一様也又今令之云々

の父と楊貴妃とをとりあつた

源氏よりなり 幸甚也

はるあ  
ほろろ

一、そのころの日本は

100

くちろり

一、先んずるを先んずる

子方

一物に三石取丸に治るる

Wm. Frankfort Smith, Secy. Jan 1

reinfestation

一、  
伊予の

つとて調子

一、れをある  
りすある

—

一  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

三六  
本  
球  
人  
全

やわらぎとくはなはる　琉球河

三

一

と 興と云や 王君侯氏物集

2 王命婦と云子同

孝子

上云管洪元

100

一 様はくちん そり様家のて

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 きき様家とまてのて

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一 一とやうな人か 人々をさうきんを

一わさぐ 奥の事からしてさういへせ  
しき後で様衣とて今をぬうと云  
のや着るよりいふこと

一あやうと 今様君一様武藝のまの  
けみと名茶田中ねむさけ様から  
だういふかといふ因縁をいふは  
一ふの 夏の所帯とて様君の事  
いふこと

一うくの なまのいふで様衣はさ

うのとけしとてさういふ

一本下のをうりとは金一様で様衣  
れは氣をなだめは金一様でさうい  
てなまのあやうと云ふは 今様君の  
さういふよりいふことと云ふは  
とていふこと

一わさぐと ねたはれうとていふは  
様衣のいふことと云ふはさうい  
ふことと云ふこと

一いま ねたはれうとていふは

一ほどと ねたはれうとていふは  
ねたはれうとていふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは

一いたし ねたはれうとていふは

一ほどと ねたはれうとていふは  
ねたはれうとていふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは

一ほどと ねたはれうとていふは  
ねたはれうとていふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは  
さういふことと云ふことと云ふは

一人お守 源氏の文のすゝ

一とまのり 彼女とあてはつて

くしてどういふやうに

一お守も さきの四つに

なりや

一そのり 前後のれと

あつていふやうに

ふつとさのわと

つとねとあり

一お守も 彼女の内面であら

ふとあつて

くつとあつて

お守も

彼女とは別箇の女であつて

一お守も

彼女とは別箇の女であつて

彼女とは別箇の女であつて

彼女とは別箇の女であつて

われは

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一お守も

一  
也  
也  
也  
也

一月つゝ、君き入給ふ乳母二年  
おたうて

一と今、家へ所すまその事へ  
あ事も感懐所、相違うるを  
とをばあふと云うそわづか下  
等とたりてはなとる也

いひこせ 先のちやうどはせよ  
おほくちやうどはせよ

一寺 今所居を言ひしに、今と乳母  
と一なり

一やきんぐら せせきひけり  
きものと倍いふ

一たび  
虎のまゝようり

一、<sup>和</sup>新刊

一、くのまをうて君はあふす

こころは帰郷を待つといふなり

一三六  
金也

懷姫乃也哉あゝさうさう  
始りなり

一時さう寝衣のきへんをりや  
のゝと衣のつひりあへん

てとてううと歌やわんとて  
わんわんてとて歌やわんとて

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

[illegible]

いふてつうに同くある同様に

い來といふは毎日ひらき行は

又わの愛中ニ其の脈と云ふての方思

吾人非を多し。然るに  
 之を以て世を治るを以て今  
 吾人非を多し。然るに

卷之三



一丁下 陳家子孫河守ハ其老信也

櫻井のふんふん草のふんふん草

とておこりて今ふく  
とておこりて今ふく

不毛の地と云ふなり

いふにふくむべき

ふたにめんきふ

一糸のちり 幸一、二枚計をあげ

井筒半平の日記

一、この甘乳の乳母のふりこく

五、六、七

乳母の牛へ行く

一二三

やゝさあかひうそをねえをいふ

Handwritten signature: *[Illegible]*

ササ成に候の事とあるひりく

五

一なりハ其の具とてく

今<sup>レ</sup>の世に眞の眞よ

1111

一やまの香に 花まのほえさ

うゝをれをたふて

一應之

一ノ里ノ子ノサカキ

母を以て其の爲めの名を以てした

わすれぬはらへて

月日殿下を幸ひて入りあり

[illegible]

不

一、女界之不平

卷之六

一、

一、此乃 齊人

— 25 —

一、此乃新也

此

一晩、車中門を閉めてうとうと寝  
のち老いし心わくとまふす

一事の功を極めたり其の功を  
今よりして今より其の功を  
いふものなり 物事は一に成るべし  
其の功を極めたり其の功を  
一に成るべし其の功を

[illegible]

一軍 吳中

一、わが国の戸口を増やせ  
 のをうたふ

一、後方よりなるもの

一男の又一人女の同車

一〇三三 乃如本意也

武友吳

一ひさち  
蟬を火のけし二葉とて

秘ての書

一をわたりてすゝめ男に遇成

一六八 傳島之志

一 中絶之虞。妊娠の毒害を

一、手、口、心、意、氣、神、精、血、肉、骨、髓、筋、脈、皮、毛、髮、爪、齒、舌、喉、咽、膈、胃、脾、肝、膽、肺、大、小、便、道、三、焦、等、處、有、病、者、皆、由、此、等、氣、血、不、調、而、成、也、

Handwritten signature: *Handwritten signature*

一、そのうちには、おれとて大蔵

江表方難定

Handwritten signature: *Handwritten signature*

一竹あるん ありの事とて

Referring to the

[illegible]

15. *Phragmites communis* Trin.

一事 廿四夜にそびる人毎

ひびききききききききき

とサの處よりよりたふしういふ

人あはれに衣衣て中感えし乃如く

えわあ〜

大正十一年九月



一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく

一 ちひの通ふ其わいふはち  
きふふとくかふとく



吳中多士

一平の国狀 飛騨川の古は

一ト草 源良の云く下草に

一、一、の音 読み 様式

一から要嬢姐の事へ進けりて、

三前をばいふとんとなすれ

2-3-20

一、後衣の如く

一、新に校舎の建築を完了し、

志あるをばやうに

たふさふさといふにちい

Phytolacca

一うの版と  
母のふしむんと

夢にうらやまをいふ

apparent

一より並みに人の足さうな

1566  
2571

一々善惡の  
いふなりけり

一西のくわい 杖の方へ

一せくはよ　まきの藤え　たを　ほろよ

タネのくちのつものつもの

一廿世の まゐにみちや

一又是涼風暮雨天　のきぎのきぎ

作人と母の言ひにこたへて

スミの如く

一か舟に四人は名乗る人ぞよ

千手つゝあそび 筑紫下人 昌年

一、大正 道がかり明(義)を以て

一、大武重「紀母のわふたまつとく」

1837

一、ハナハナ 太夫見せり乳母者

りていふ武蔵方になさうと

服之

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

學とてなる事嫁娘中一物とて

いふに、  
いふに、

いなりふふふふふふふふふふ

一 いなりふ 乳母方うてふうてふ

ふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふ

一 ふふふふて 乳母方うてふうてふ

一 ふふふふのふふふ 唐伽ふふふふ

ふふふふふ

一 ふふふふふ 唐伽ふふふふ

ふふふふふ

一 ふふふふふ 唐伽ふふふふ

一 ふふふふ 唐伽ふふふふ

ふふふふ

一 ふふふふのふふ 唐伽ふふふ

一 ふふふふのふふ 唐伽ふふふ

ふふふふふ

ふふふ

下級才二

一 ふふふふのふふ 唐伽ふふふ

一 ふふふふのふふ 唐伽ふふふ

一 ふふふふのふふ 唐伽ふふふ

一 ふふふふのふふ 唐伽ふふふ

一 ふふふふのふふ 唐伽ふふふ

一 ふふふふのふふ 唐伽ふふふ

ふふふ

一 ふふふ

大蔵乳母方

唐伽ふふふ



一 子不肖 吳孝不用

四の五をわろしほて右腹をたすき  
ほてちのうきあひ

一とくそ 大慶の年より今

けさの朝は曇り空のせいかな

一、中今人 極其而今之

[illegible]

一ふり、大層のうきの表れい女云々

足るを以てたゞの如くは人海

RECEIVED

中(人)と原(文)をすて(い)ふと

[illegible]

三十一

一、愛、世の母を以て母と爲す。

一、大なるものゝ幸なりとて

一 中 哲 天 妙 有 合 於 常 人 未 之 知 也

赤書とて、あはれに大やまづにわらふ

[illegible]

くらねの奥と

二、三度より多し。校舎の周囲に三宮や

此致

一、事相 中勢より表より一層に及ぶ

おとめをいじめるやうなふりをする

大あむり 久にやうきうはるまほ

梁ノ子ト下ノ子ト

ひはれぬるはつたて

一、その事業の進捗状況を、

とて、  
可入

琴と引子と琴と祝と

とて 入内

一  
七  
五  
五

二、あつた。世の尊き人

一 死にゆく中、あつた命がうそ

力代を物とて死にうつるゝ人をも

Quintan

三才圖會





一 中 文 里 後 へ 入 入 中 文 の 四 書 中 文  
四 書 七 終 了 初 級 中 文 の 完 結 へ 入  
下 へ 入 中 文 七 終 了

一、の中布書を紙に包んでしるはら  
まがぬへうわつとくきふんをぬすや  
うわつとておもうをぬ おいとてく  
ろうつたを市におかすなり

一 けをみて 大いとなり 狂歌の例で  
一 思ひ ぞ我をこゝろより 大い思ひの

4-20-2000

一に、なまの 種族 なり を 分 た  
る やう に そ の 四 科 に

[illegible]

一、（一） 中ノノ  
一、（二） 中ノノ

一と云ふ人 中絶云々武家の、さうして  
西武大武下——

一子しその  
川まゆ

[illegible]

わさなをふてゆくとまうく  
ひのきふう 雲のふふふふ

一 安樂行品末廿の安樂のり

料の一人<sup>二</sup>於て之<sup>一</sup>入里九食州<sup>二</sup>一<sup>三</sup>並<sup>三</sup>於心念佛ノ

一、女と授乳の病にて

一此の併の如く付事をして坊をせ  
るより其女人を娶る者の上に如くして

一ちち 廿二は秋の夕暮

一 智と云ふの如く 水も如くなるらん  
わすめ

1541 年 4 月 2 日 星期五

[illegible]

一丁丁に種家の如きことみななること

一三十一 腹中死胎之病

とほまゝといふなり

一、（一） 愛人（二）

一、政治

吳昌碩

一男のたゞ性衣のふくさん身衣也

一此方よりわづかに中絶して中絶する。

Li-nan-ko

一、五、七、廿、の、何、ろ、く、き、を、な、し、に、た

卷之五

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

三ノノ

一、由是子女之流，年長而後，

三、漢書卷一百一十五上

子

とて、  
香の  
はる  
はる  
はる  
はる

アノミヤノミヤ

一、このころ

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

と想衣の衣如くしてゐる

一、夜半夢入夢中一見之

一 聲のいと 草子で 和をて 白と 良と

いふ事をもつて廿二の世に文のり

多に病つたを言ふは、  
中絶云

夏もはなはた

一、その夕れ<sup>ひる</sup>をうそとせしめしむ

今更に人々を

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、政治的に於けるもの

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一、  
中

一、（一）

一、（一） 一、（一）

卷之六



一、この頃よりその筆原をすくわたりて  
まゝ人のひきき

一、  
扇名

一、二、三

一月々々倍言平也云云了々々々

and, I hope, of record in

一雲并ふもむかひも人ともいふ

五

一、（一） 恒衣の恒衣としてたてて

...

天竺の三つと云ふは、  
天竺の三つと云ふは、

一、の事 女に、候はずよえと

一以事之文  
二以事之文

想うと處と今なく日と候哉

陳氏は其の唐の如くいふ如く

一考し、ふきにいそ不知所を推察せしむ

一

一、ゆり、ふつと、少年は、さびれた衣のよう

長久保

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 84

性教不能是之けり云々

一なれど 川舟にふ

一ひん毛 沙摩とみんとさきふ金

吳昌碩

一、張王入門の中と二重門(足を

人々を慰むる人々を慰むる人々を慰むる

一月とて 標本の四割は腐敗したもので

in the Department of Education

—

一、此乃  
大德二年

さういふこと

[illegible]

Dr. J. C. F.

ありふれた人と違ひなくともその様を

きんぐふくやうとほひうへんをうりやうふくやう

1260111

一、此  
大  
興  
寺  
之  
山  
也

一 子に死せり 俗に云う

君辱亡

一、此の文、我々の文の答、よいつて

1871  
 1872  
 1873  
 1874  
 1875  
 1876  
 1877  
 1878  
 1879  
 1880  
 1881  
 1882  
 1883  
 1884  
 1885  
 1886  
 1887  
 1888  
 1889  
 1890  
 1891  
 1892  
 1893  
 1894  
 1895  
 1896  
 1897  
 1898  
 1899  
 1900  
 1901  
 1902  
 1903  
 1904  
 1905  
 1906  
 1907  
 1908  
 1909  
 1910  
 1911  
 1912  
 1913  
 1914  
 1915  
 1916  
 1917  
 1918  
 1919  
 1920  
 1921  
 1922  
 1923  
 1924  
 1925  
 1926  
 1927  
 1928  
 1929  
 1930  
 1931  
 1932  
 1933  
 1934  
 1935  
 1936  
 1937  
 1938  
 1939  
 1940  
 1941  
 1942  
 1943  
 1944  
 1945  
 1946  
 1947  
 1948  
 1949  
 1950  
 1951  
 1952  
 1953  
 1954  
 1955  
 1956  
 1957  
 1958  
 1959  
 1960  
 1961  
 1962  
 1963  
 1964  
 1965  
 1966  
 1967  
 1968  
 1969  
 1970  
 1971  
 1972  
 1973  
 1974  
 1975  
 1976  
 1977  
 1978  
 1979  
 1980  
 1981  
 1982  
 1983  
 1984  
 1985  
 1986  
 1987  
 1988  
 1989  
 1990  
 1991  
 1992  
 1993  
 1994  
 1995  
 1996  
 1997  
 1998  
 1999  
 2000  
 2001  
 2002  
 2003  
 2004  
 2005  
 2006  
 2007  
 2008  
 2009  
 2010  
 2011  
 2012  
 2013  
 2014  
 2015  
 2016  
 2017  
 2018  
 2019  
 2020  
 2021  
 2022  
 2023  
 2024  
 2025  
 2026  
 2027  
 2028  
 2029  
 2030  
 2031  
 2032  
 2033  
 2034  
 2035  
 2036  
 2037  
 2038  
 2039  
 2040  
 2041  
 2042  
 2043  
 2044  
 2045  
 2046  
 2047  
 2048  
 2049  
 2050  
 2051  
 2052  
 2053  
 2054  
 2055  
 2056  
 2057  
 2058  
 2059  
 2060  
 2061  
 2062  
 2063  
 2064  
 2065  
 2066  
 2067  
 2068  
 2069  
 2070  
 2071  
 2072  
 2073  
 2074  
 2075  
 2076  
 2077  
 2078  
 2079  
 2080  
 2081  
 2082  
 2083  
 2084  
 2085  
 2086  
 2087  
 2088  
 2089  
 2090  
 2091  
 2092  
 2093  
 2094  
 2095  
 2096  
 2097  
 2098  
 2099  
 2100  
 2101  
 2102  
 2103  
 2104  
 2105  
 2106  
 2107  
 2108  
 2109  
 2110  
 2111  
 2112  
 2113  
 2114  
 2115  
 2116  
 2117  
 2118  
 2119  
 2120  
 2121  
 2122  
 2123  
 2124  
 2125  
 2126  
 2127  
 2128  
 2129  
 2130  
 2131  
 2132  
 2133  
 2134  
 2135  
 2136  
 2137  
 2138  
 2139  
 2140  
 2141  
 2142  
 2143  
 2144  
 2145  
 2146  
 2147  
 2148  
 2149  
 2150  
 2151  
 2152  
 2153  
 2154  
 2155  
 2156  
 2157  
 2158  
 2159  
 2160  
 2161  
 2162  
 2163  
 2164  
 2165  
 2166  
 2167  
 2168  
 2169  
 2170  
 2171  
 2172  
 2173  
 2174  
 2175  
 2176  
 2177  
 2178  
 2179  
 2180  
 2181  
 2182  
 2183  
 2184  
 2185  
 2186  
 2187  
 2188  
 2189  
 2190  
 2191  
 2192  
 2193  
 2194  
 2195  
 2196  
 2197  
 2198  
 2199  
 2200  
 2201  
 2202  
 2203  
 2204  
 2205  
 2206  
 2207  
 2208  
 2209  
 2210  
 2211  
 2212  
 2213  
 2214  
 2215  
 2216  
 2217  
 2218  
 2219  
 2220  
 2221  
 2222  
 2223  
 2224  
 2225  
 2226  
 2227  
 2228  
 2229  
 2230  
 2231  
 2232  
 2233  
 2234  
 2235  
 2236  
 2237  
 2238  
 2239  
 2240  
 2241  
 2242  
 2243  
 2244  
 2245  
 2246  
 2247  
 2248  
 2249  
 2250  
 2251  
 2252  
 2253  
 2254  
 2255  
 2256  
 2257  
 2258  
 2259  
 2260  
 2261  
 2262  
 2263  
 2264  
 2265  
 2266  
 2267  
 2268  
 2269  
 2270  
 2271  
 2272  
 2273  
 2274  
 2275  
 2276  
 2277  
 2278  
 2279  
 2280  
 2281  
 2282  
 2283  
 2284  
 2285  
 2286  
 2287  
 2288  
 2289  
 2290  
 2291  
 2292  
 2293  
 2294  
 2295  
 2296  
 2297  
 2298  
 2299  
 2300  
 2301  
 2302  
 2303  
 2304  
 2305  
 2306  
 2307  
 2308  
 2309  
 2310  
 2311  
 2312  
 2313  
 2314  
 2315  
 2316  
 2317  
 2318  
 2319  
 2320  
 2321  
 2322  
 2323  
 2324  
 2325

Elizabeth C. Brown

一、ふりまてい ちまわるといふ事

Handwritten signature: *Handwritten signature*

一と云の程、  
屋敷に入すと云て云てある

۱۰۰

一  
ろめい  
ろめい

一、二の店を以てしては  
なほ多量に輸入せしむ

五

一、愛氏をいふ事

源氏物語に

一志すすの月 清女病を極まりて歿す

一、ある婦人が、そのよの川をぞく

ちとろみぢり

一、家内  
おぼろけの影をのぞいて

古くより

一玉色うわす 辰巳亥

一、三、  
信、三、  
あ、三、  
云、三、

一、三、五、七、九

一巻の女 石田流良

[illegible]

いひなかりよりいひなかり 漢文定本

一毛一石  
漢氏の書名、漢の書名

傳はるべきものなりと云ふ

anterior abdominal

一畝山 原氏儀の考とあり

一  
己也  
精  
友  
良  
重  
慶  
易  
年

一、子て子てすやん ばんと櫻へ雪

1875

一、ふひもの休るりとうま家の

一、學年考大書

一々りとしきりて

ほふいひをうーとあや



一、わがまゝのふを

一、要するに、  
後二書は、  
三つとあり

一とてゐるや 穂家の四女を夫との氏へ

とてふをたふしうに

一集月定尺素通人

あるまじいことを

一、（五）きこえの長 源氏文永自

St. Peter's Church, N. York

Trustworthy

李夫人漢書

一、各處煙土之收入

その又のちよ

一きりくは けいさくをそそぎあ

善人の心

一、（一） 日本、（二） 中国、（三） 印度、（四） 南洋、（五） 北洋、（六） 蒙古、（七） 西藏、（八） 新疆、（九） 青海、（十） 甘肃、（十一） 宁夏、（十二） 陕西、（十三） 山西、（十四） 河北、（十五） 山东、（十六） 河南、（十七） 湖北、（十八） 湖南、（十九） 四川、（二十） 云南、（二十一） 贵州、（二十二） 广西、（二十三） 广东、（二十四） 福建、（二十五） 浙江、（二十六） 江苏、（二十七） 安徽、（二十八） 江西、（二十九） 湖北、（三十） 湖南、（三十一） 四川、（三十二） 云南、（三十三） 贵州、（三十四） 广西、（三十五） 广东、（三十六） 福建、（三十七） 浙江、（三十八） 江苏、（三十九） 安徽、（四十） 江西、（四十一） 湖北、（四十二） 湖南、（四十三） 四川、（四十四） 云南、（四十五） 贵州、（四十六） 广西、（四十七） 广东、（四十八） 福建、（四十九） 浙江、（五十） 江苏、（五十一） 安徽、（五十二） 江西、（五十三） 湖北、（五十四） 湖南、（五十五） 四川、（五十六） 云南、（五十七） 贵州、（五十八） 广西、（五十九） 广东、（六十） 福建、（六十一） 浙江、（六十二） 江苏、（六十三） 安徽、（六十四） 江西、（六十五） 湖北、（六十六） 湖南、（六十七） 四川、（六十八） 云南、（六十九） 贵州、（七十） 广西、（七十一） 广东、（七十二） 福建、（七十三） 浙江、（七十四） 江苏、（七十五） 安徽、（七十六） 江西、（七十七） 湖北、（七十八） 湖南、（七十九） 四川、（八十） 云南、（八十一） 贵州、（八十二） 广西、（八十三） 广东、（八十四） 福建、（八十五） 浙江、（八十六） 江苏、（八十七） 安徽、（八十八） 江西、（八十九） 湖北、（九十） 湖南、（九十一） 四川、（九十二） 云南、（九十三） 贵州、（九十四） 广西、（九十五） 广东、（九十六） 福建、（九十七） 浙江、（九十八） 江苏、（九十九） 安徽、（一百） 江西、（一百零一） 湖北、（一百零二） 湖南、（一百零三） 四川、（一百零四） 云南、（一百零五） 贵州、（一百零六） 广西、（一百零七） 广东、（一百零八） 福建、（一百零九） 浙江、（一百一十） 江苏、（一百一十一） 安徽、（一百一十二） 江西、（一百一十三） 湖北、（一百一十四） 湖南、（一百一十五） 四川、（一百一十六） 云南、（一百一十七） 贵州、（一百一十八） 广西、（一百一十九） 广东、（一百二十） 福建、（一百二十一） 浙江、（一百二十二） 江苏、（一百二十三） 安徽、（一百二十四） 江西、（一百二十五） 湖北、（一百二十六） 湖南、（一百二十七） 四川、（一百二十八） 云南、（一百二十九） 贵州、（一百三十） 广西、（一百三十一） 广东、（一百三十二） 福建、（一百三十三） 浙江、（一百三十四） 江苏、（一百三十五） 安徽、（一百三十六） 江西、（一百三十七） 湖北、（一百三十八） 湖南、（一百三十九） 四川、（一百四十） 云南、（一百四十一） 贵州、（一百四十二） 广西、（一百四十三） 广东、（一百四十四） 福建、（一百四十五） 浙江、（一百四十六） 江苏、（一百四十七） 安徽、（一百四十八） 江西、（一百四十九） 湖北、（一百五十） 湖南、（一百五十一） 四川、（一百五十二） 云南、（一百五十三） 贵州、（一百五十四） 广西、（一百五十五） 广东、（一百五十六） 福建、（一百五十七） 浙江、（一百五十八） 江苏、（一百五十九） 安徽、（一百六十） 江西、（一百六十一） 湖北、（一百六十二） 湖南、（一百六十三） 四川、（一百六十四） 云南、（一百六十五） 贵州、（一百六十六） 广西、（一百六十七） 广东、（一百六十八） 福建、（一百六十九） 浙江、（一百七十） 江苏、（一百七十一） 安徽、（一百七十二） 江西、（一百七十三） 湖北、（一百七十四） 湖南、（一百七十五） 四川、（一百七十六） 云南、（一百七十七） 贵州、（一百七十八） 广西、（一百七十九） 广东、（一百八十） 福建、（一百八十一） 浙江、（一百八十二） 江苏、（一百八十三） 安徽、（一百八十四） 江西、（一百八十五） 湖北、（一百八十六） 湖南、（一百八十七） 四川、（一百八十八） 云南、（一百八十九） 贵州、（一百九十） 广西、（一百九十一） 广东、（一百九十二） 福建、（一百九十三） 浙江、（一百九十四） 江苏、（一百九十五） 安徽、（一百九十六） 江西、（一百九十七） 湖北、（一百九十八） 湖南、（一百九十九） 四川、（二百） 云南、（二百零一） 贵州、（二百零二） 广西、（二百零三） 广东、（二百零四） 福建、（二百零五） 浙江、（二百零六） 江苏、（二百零七） 安徽、（二百零八） 江西、（二百零九） 湖北、（二百一十） 湖南、（二百一十一） 四川、（二百一十二） 云南、（二百一十三） 贵州、（二百一十四） 广西、（二百一十五） 广东、（二百一十六） 福建、（二百一十七） 浙江、（二百一十八） 江苏、（二百一十九） 安徽、（二百二十） 江西、（二百二十一） 湖北、（二百二十二） 湖南、（二百二十三） 四川、（二百二十四） 云南、（二百二十五） 贵州、（二百二十六） 广西、（二百二十七） 广东、（二百二十八） 福建、（二百二十九） 浙江、（二百三十） 江苏、（二百三十一） 安徽、（二百三十二） 江西、（二百三十三） 湖北、（二百三十四） 湖南、（二百三十五） 四川、（二百三十六） 云南、（二百三十七） 贵州、（二百三十八） 广西、（二百三十九） 广东、（二百四十） 福建、（二百四十一） 浙江、（二百四十二） 江苏、（二百四十三） 安徽、（二百四十四） 江西、（二百四十五） 湖北、（二百四十六） 湖南、（二百四十七） 四川、（二百四十八） 云南、（二百四十九） 贵州、（二百五十） 广西、（二百五十一） 广东、（二百五十二） 福建、（二百五十三） 浙江、（二百五十四） 江苏、（二百五十五） 安徽、（二百五十六） 江西、（二百五十七） 湖北、（二百五十八） 湖南、（二百五十九） 四川、（二百六十） 云南、（二百六十一） 贵州、（二百六十二） 广西、（二百六十三） 广东、（二百六十四） 福建、（二百六十五） 浙江、（二百六十六） 江苏、（二百六十七） 安徽、（二百六十八） 江西、（二百六十九） 湖北、（二百七十） 湖南、（二百七十一） 四川、（二百七十二） 云南、（二百七十三） 贵州、（二百七十四） 广西、（二百七十五） 广东、（二百七十六） 福建、（二百七十七） 浙江、（二百七十八） 江苏、（二百七十九） 安徽、（二百八十） 江西、（二百八十一） 湖北、（二百八十二） 湖南、（二百八十三） 四川、（二百八十四） 云南、（二百八十五） 贵州、（二百八十六） 广西、（二百八十七） 广东、（二百八十八） 福建、（二百八十九） 浙江、（二百九十） 江苏、（二百九十一） 安徽、（二百九十二） 江西、（二百九十三） 湖北、（二百九十四） 湖南、（二百九十五） 四川、（二百九十六） 云南、（二百九十七） 贵州、（二百九十八） 广西、（二百九十九） 广东、（三百） 福建、（三百零一） 浙江、（三百零二） 江苏、（三百零三） 安徽、（三百零四） 江西、（三百零五） 湖北、（

家内はそとをきくのみならず

上中卷

[illegible]

春生のひかりをまきせ給ふ

一やき 知照の権を著すものなり

わすれぬわすれぬ

1964-1965

愛をこめて

1-10-1968

そぞろのうたをうたふ

உள்ளுமேயுள்ளவர்களுக்கெல்லாம்

一之五 漢文

一いまだ 榎森のそとをまわると

一、漢文の輸入

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

にきりきり 飛天大魔の如き怪

五



表の海、中、下と

一、その草は、はなはた、うつくしき草なり。

一、おひさしに  
分りやうと

一 中 文 本 書 目 録

く中央の山を渡つて山をくぐり

終

一丈の長さ  
天子の御衣

りしを以て新王極て而ひて

是より我とては中々是れを食

...

۱۰۰

一、游踪 女一、女二

一、  
張氏女二

一、よく読むと、  
「よく読むと、

一松より上りて天子の御所より世に

おやんとおやうをせよといふは

徳政の心

一ちちちち 一卷ちちちちちちちち

三

一舟のなり  
うゝとて舟に  
入る

又女三

一 種

一喜文の「やせりてふたに」

一、子て美の心の中へ美をいれん

一、女部

一書三好也 廣文一書

一戦をいふをその一と漢文をいひて

[illegible]

如くにとて、  
其の如く  
何す

とよりうきを引ぬるゝ衣をぬきの素

1000

一、あゝい景野（巻の三）

ひさしにやう

1-4th of April 1950

とらふにぞ  
ふやうとて  
老はれ

一衣二也三也人三三子也

あふれんぐをすくくすくすく  
催し歌一

江戸より不仕合に今より三つはえり

4-9-2016



一、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百。

一、陸軍省の所屬機関

一、楊貴妃と玄宗

其地東流之蓋也

一今半 又一条之七

月乃授衣九月始作衣

一、日本の経済と  
世界の経済との関係

後ハ女二交され也女二交ハ乃三交

不才又四端文一をの事と

一松は大師入定所三合懐と銘あり於也

[illegible]

さきの如きくちをいふに

三

一、海川流を渡りてわのたふす

一尋うり 日やみ底く 死を昇来

上之

そのころは、おれが下にいる

2

一 五十年のち 唐伯とてしるす

一是人命如 寶貴不以筆書字記

是人命終滿

生利天と云ふこと

一、堂儒坊修葺者 寺江列石山仁學堂

一萊王母當知如是諸人等歸品也

是經難得聞 信受者亦難

如人渴飲水  
穿鑿於高原

猶見乾燥土，知去水尚遠。

漸見濕土泥  
決定知近水

茅王汝當知如是諸人等

不聞法華經  
三佛智甚遠

歌今時為現 清淨光明身

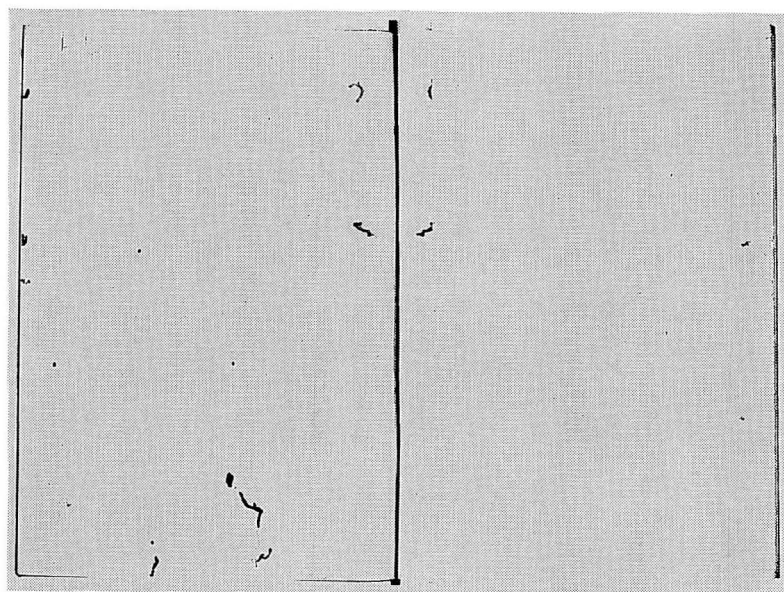
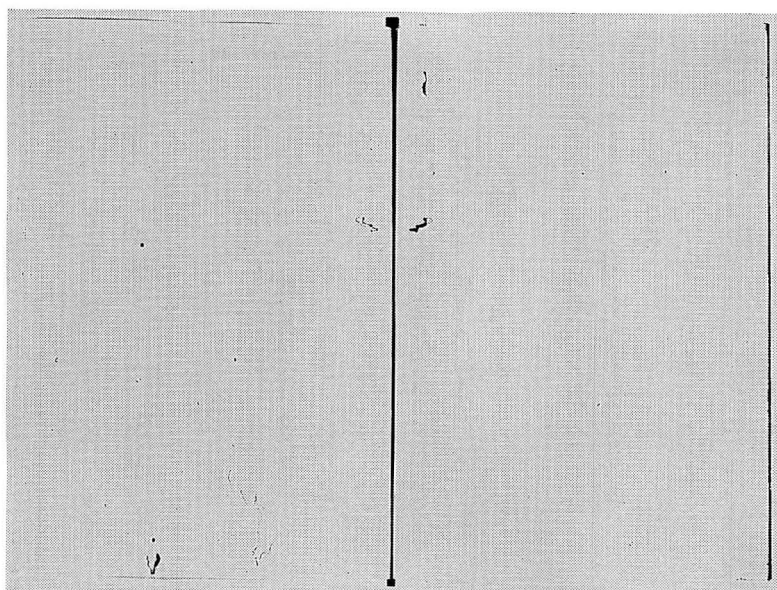
若說法之人  
獨在空閑處

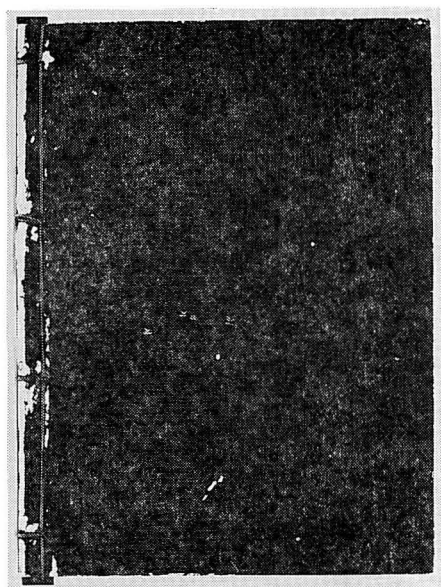
寂寞無人色  
橫誦此經曲

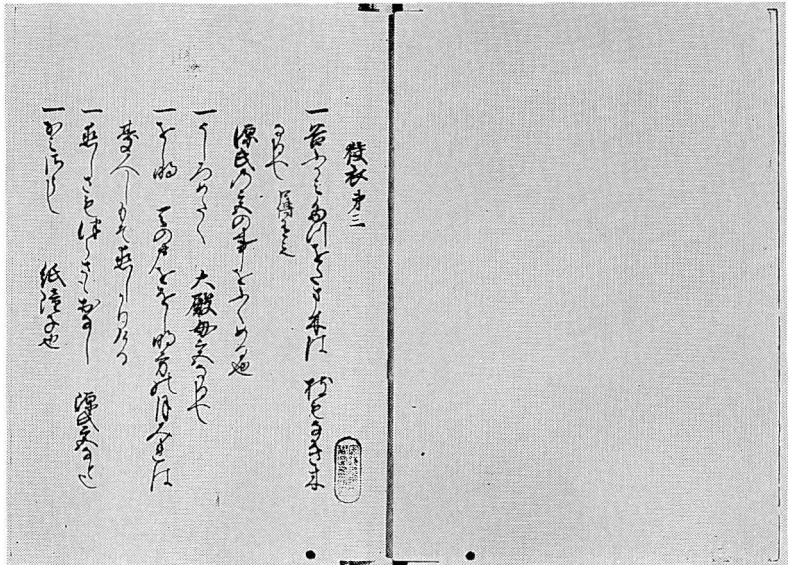
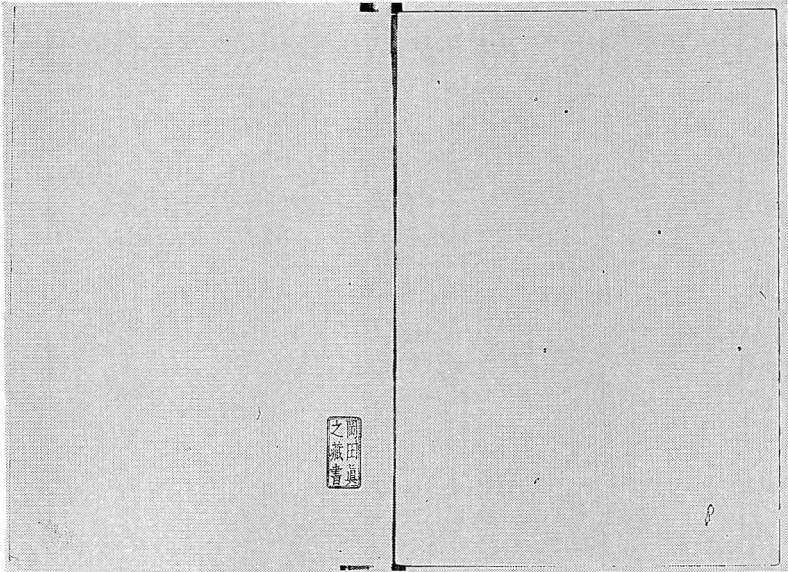
我今時為現  
清淨光身

希志失章句 為說今通利









後秋才三

一 吾ももあつてふ本は ねもふふふ

ふふて 属主と

源氏のふふふとふふて

一 今もも大敵ふふふ

一 今ももふふふふふふふ

一 今ももふふふふふ

一 今ももふふふふふ

一 今ももふふふ

紙張の也



一音月し 勢いよく進みしと舟の二つ

夢中語

18th June 1964

二、三ノ月原  
川方未動

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

一雷やあゝ 陽々 竹春 翠也 佐田 豊

一阿私仙人　　く目のは師と云はれ  
釋き因位の

時大正七年九月二十日

又達は花經と云ふて是も風乃乃

1773 11/2 1773 11/2

榮格水乃て他はふくろ供ふ

樓閣

一、秀年子分は、秀子の

[illegible]

薩摩長門大宰府

一思草 一思草

一 弟 女 三 弟

一、  
二、  
三、

一、信音のき

二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一

一 昭和五年  
九月五日

同舍

一、（一） 子不也 世道

[illegible]

とて乃ち一母二子なりきと云ふ

暑天抄に江戸の遊

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

五言古詩

二、三の葉を

一、三子之名

一、又、文庫の文を抄写

1. The first part of the document is a letter from the President of the United States to the Congress.

石文

一、  
九  
曲  
入  
心

—

わんまううまると也

一わらわは 草の池也 一草の葉のわらわ  
よなううまると也

一つみり 中納言と云うるもす  
決てまじり ちのりわと也

一わんまう 草の池也

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
りまう 草の池のわらわと云ふ  
わんまうのわらわと云ふとて  
わんまうのわらわと云ふとて

子國事と云ふ

一わんまう 草の池のわらわと云ふ也

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ  
とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

のわんまうとて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ

一わんまうは 草の池のわらわと云ふ  
也とて草の池のわらわと云ふ



一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、ハハ 又、ハハ

一子未生 早婚者此也

一 けめは衣四生の時より

丁巳臘辛卯

[illegible]

のうきぬいともみえよ

W. A. R. 1871

一喜世川ゆゑにうき世山人だのうき

今一に

—もうもうとそに安んじあひ人

のまじりあやうむらけへそそぐ

糸のつやと華子の地ようを

要川之くみは源中橋の衣衣

衣の衣をいふやのなりと

我々も忘る

一休又云とらわらぬれと

Small, thin, yellowish

一は張とつぎ  
二はとつと  
三はとつと  
四はとつと  
五はとつと  
六はとつと  
七はとつと  
八はとつと  
九はとつと  
十はとつと

萬葉集卷之八

己くもや月細かき夜ふりく

一もむかし  
甲し人

一巻一編より人の心は変わる

5. 諸君の御意見

一 心をこめて

一、院々  
東院のふりや時々  
おき

三と姓をいづるの語を男と女と

centered

一わらわと繁 事助

一 繪は葉 柳とてと寄合らるる

道へ親ふと也美ん ちりちりちり

今こそとて後世に福を為す也

一ツに花 其のふり

一 ありありと 見え見え飛鳥井（

夢

一、本場（本場）



一 地へてみ道へあり  
 一 二ふふ一ふふ 瓶を井瓶と瓶と也一  
 一 三ふふふ一ふふ 中勢文の井瓶也  
 一 四ふふふ一ふふ 春風文の井瓶也  
 一 五ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 六ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 七ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 八ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 九ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十一ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十二ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十三ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十四ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十五ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十六ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十七ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十八ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十九ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 二十ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也

一 一ふふふ一ふふ 入道の井瓶也  
 一 二ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 三ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 四ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 五ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 六ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 七ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 八ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 九ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十一ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十二ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十三ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十四ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十五ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十六ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十七ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十八ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 十九ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也  
 一 二十ふふふ一ふふ 井瓶の井瓶也

世よりうかん

一 けいふあつてふくやうてふくあつてふく

まふてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

らふてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

をふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

一 ふくあつてふくあつてふく

うらなうまきとまきうらへん

一 せいはい 青苔紙 明詠

碧玉装華料立柱 青苔色紙敷の書

一 きせきとく 入道の巻とく 一 へきまき

住持 一 巻たうりて

一 居のきう 筆此 明方 巻すの 一 四ひつ

まての巻の中へい

一 ぶのせう 在の巻なるを

一 おひきや 藤 一 巻た 一 永草巻也

うらなうまきとまきうらへん

うらなうまきとまきうらへん

うらなうまきとまきうらへん

一 居のきう 筆此 明方 巻すの 一 四ひつ

まての巻の中へい

一 ぶのせう 在の巻なるを

一 おひきや 藤 一 巻た 一 永草巻也

うらなうまきとまきうらへん

うらなうまきとまきうらへん

うらなうまきとまきうらへん

くれまきとく 月よふく 一 巻た

一 居のきう 筆此 明方 巻すの 一 四ひつ

まての巻の中へい

一 ぶのせう 在の巻なるを

一 おひきや 藤 一 巻た 一 永草巻也

うらなうまきとまきうらへん

うらなうまきとまきうらへん

うらなうまきとまきうらへん

一 居のきう 筆此 明方 巻すの 一 四ひつ

まての巻の中へい

一 ぶのせう 在の巻なるを

一 おひきや 藤 一 巻た 一 永草巻也

うらなうまきとまきうらへん

うらなうまきとまきうらへん

うらなうまきとまきうらへん

一 居のきう 筆此 明方 巻すの 一 四ひつ

まての巻の中へい

一 ぶのせう 在の巻なるを

一 おひきや 藤 一 巻た 一 永草巻也



20th Dec 1904

一、年一、度、く、や、と、い、え、と、也

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

いふ人あらず

1. Erster Abschnitt

此世不人

一ふれりし芳の根 毒

一、二の目より  
多量に産出する。一、二は

From the same shop

一番安んじぬ所の歌謡ゆゑと云ふこと

一とあり  
川茅のふき

[illegible]

不知是  
友寧相考人耶

一しう世のさへ

一、女院 万葉集 万葉集 万葉集

Lawrence Sanders

95

一、其の二、其の三、其の四、其の五、其の六、其の七、其の八、其の九、其の十、其の十一、其の十二、其の十三、其の十四、其の十五、其の十六、其の十七、其の十八、其の十九、其の二十、其の二十一、其の二十二、其の二十三、其の二十四、其の二十五、其の二十六、其の二十七、其の二十八、其の二十九、其の三十、其の三十一、其の三十二、其の三十三、其の三十四、其の三十五、其の三十六、其の三十七、其の三十八、其の三十九、其の四十、其の四十一、其の四十二、其の四十三、其の四十四、其の四十五、其の四十六、其の四十七、其の四十八、其の四十九、其の五十、其の五十一、其の五十二、其の五十三、其の五十四、其の五十五、其の五十六、其の五十七、其の五十八、其の五十九、其の六十、其の六十一、其の六十二、其の六十三、其の六十四、其の六十五、其の六十六、其の六十七、其の六十八、其の六十九、其の七十、其の七十一、其の七十二、其の七十三、其の七十四、其の七十五、其の七十六、其の七十七、其の七十八、其の七十九、其の八十、其の八十一、其の八十二、其の八十三、其の八十四、其の八十五、其の八十六、其の八十七、其の八十八、其の八十九、其の九十、其の九十一、其の九十二、其の九十三、其の九十四、其の九十五、其の九十六、其の九十七、其の九十八、其の九十九、其の百。

陳氏家譜

11-2-11

一五五

一せうきて 汗死

一、予  
入  
たのま  
良  
二、

天の事なり

一、二章

一、わたりえふく  
一、あまのくに

一やみくもに

糸とく

1852  
1853  
1854

一是ゆるい ねらにまをさす

一玉うらも母のまゝにねおまゐるゝと云

そはしるされいなりとてお首字

ても中くはる

一院ふじや 書信やうきのつとふを

[illegible]

はるかに

一 竹ふき院のつねたふちもゆーりも  
と也

一 赤ふつめとくはうんとては院も俗院  
也の俗子つとわらひてしもてと来  
おほくひつひ也

一 ずうずう ちかひふちとまりとて来  
うつと也

一 わふく ちかひ 俗院也  
一 ひやふく ちかひ ちかひの細也

一 ちかひ 院の細也

一 院の細也 ちかひふちとまりとて来  
ては院も俗院也

一 ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也  
用とては院も俗院也

一 ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也  
ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也

一 ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也  
ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也

一 院の細也 ちかひふちとまりとて来  
ちかひふちとまりとて来

一 ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也  
ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也

一 ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也  
ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也

一 ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也  
ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也

一 ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也  
ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也

一 ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也  
ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也

一 ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也  
ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也

一 ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也  
ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也

一 ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也  
ちかひふちとまりとて来ては院も俗院也

一 岩をくぐり水  
引ふく

一よのきとけきれとふふく

志願人々君へて  
私へて

うのねとく島とうくまや飛地

Landwirtschaft

一、わが 少年像本と

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

月夜一夢をてしる

孝子之志

一

一 三 五 七 九

一、事工を順つて行ふが如くのこと

あつては ちのちのちのちのちのち

Handwritten signature: *Handwritten signature*

一、（右）  
 一、（左）

一五、

[illegible]

正徳院、七十七、博人、と也、源氏、流

岸也

一 乃々然くく 二 亦源氏物語の付

よふねいふふの巻をみる言は

一、方 冲製也 今江源氏文也

一、五、七、九、銀、上、下、め

一 子事ふと 時鳥みふなりと

長久保赤水

一、  
神也

三

一、（一） 日本、（二） 朝鮮、（三） 支那、（四） 蒙古、（五） 西藏、（六） 西伯利亞、（七） 阿爾泰、（八） 新疆、（九） 青海、（十） 四川、（十一） 雲南、（十二） 貴州、（十三） 廣西、（十四） 廣東、（十五） 福建、（十六） 浙江、（十七） 江蘇、（十八） 安徽、（十九） 湖北、（二十） 湖南、（二十一） 江西、（二十二） 山東、（二十三） 河南、（二十四） 陝西、（二十五） 甘肅、（二十六） 寧夏、（二十七） 山西、（二十八） 察哈爾、（二十九） 綏遠、（三十） 熱河、（三十一） 遼寧、（三十二） 吉林、（三十三） 黑龍江、（三十四） 奉天、（三十五） 大連、（三十六） 長春、（三十七） 哈爾濱、（三十八） 齊齊哈爾、（三十九） 海拉爾、（四十） 滿洲里、（四十一） 庫倫、（四十二） 歸化城、（四十三） 包頭、（四十四） 大同、（四十五） 宣化、（四十六） 張家口、（四十七） 歸綏、（四十八） 涼州、（四十九） 莊浪、（五十） 永昌、（五十一） 鎮番、（五十二） 肅州、（五十三） 嘉峪關、（五十四） 安西、（五十五） 瓜州、（五十六） 玉門、（五十七） 敦煌、（五十八） 莫高窟、（五十九） 鳴沙山、（六十） 月牙泉、（六十一） 陽關、（六十二） 玉门关、（六十三） 漢塞、（六十四） 唐塞、（六十五） 明塞、（六十六） 清塞、（六十七） 民國塞、（六十八） 國軍塞、（六十九） 人民塞、（七十） 自由塞、（七十一） 平等塞、（七十二） 博愛塞、（七十三） 和平塞、（七十四） 正義塞、（七十五） 法治塞、（七十六） 人權塞、（七十七） 民主塞、（七十八） 科學塞、（七十九） 藝術塞、（八十） 體育塞、（八十一） 音樂塞、（八十二） 繪畫塞、（八十三） 文學塞、（八十四） 戲劇塞、（八十五） 電影塞、（八十六） 攝影塞、（八十七） 印刷塞、（八十八） 出版塞、（八十九） 廣播塞、（九十） 電視塞、（九十一） 電報塞、（九十二） 電話塞、（九十三） 郵政塞、（九十四） 交通塞、（九十五） 運輸塞、（九十六） 航海塞、（九十七） 航空塞、（九十八） 鐵路塞、（九十九） 公路塞、（一百） 水運塞、（一百零一） 陸運塞、（一百零二） 空運塞、（一百零三） 海運塞、（一百零四） 陸海運塞、（一百零五） 空海運塞、（一百零六） 陸空運塞、（一百零七） 海空運塞、（一百零八） 陸海空運塞、（一百零九） 陸海空運塞、（一百一十） 陸海空運塞、（一百一十一） 陸海空運塞、（一百一十二） 陸海空運塞、（一百一十三） 陸海空運塞、（一百一十四） 陸海空運塞、（一百一十五） 陸海空運塞、（一百一十六） 陸海空運塞、（一百一十七） 陸海空運塞、（一百一十八） 陸海空運塞、（一百一十九） 陸海空運塞、（一百二十） 陸海空運塞、（一百二十一） 陸海空運塞、（一百二十二） 陸海空運塞、（一百二十三） 陸海空運塞、（一百二十四） 陸海空運塞、（一百二十五） 陸海空運塞、（一百二十六） 陸海空運塞、（一百二十七） 陸海空運塞、（一百二十八） 陸海空運塞、（一百二十九） 陸海空運塞、（一百三十） 陸海空運塞、（一百三十一） 陸海空運塞、（一百三十二） 陸海空運塞、（一百三十三） 陸海空運塞、（一百三十四） 陸海空運塞、（一百三十五） 陸海空運塞、（一百三十六） 陸海空運塞、（一百三十七） 陸海空運塞、（一百三十八） 陸海空運塞、（一百三十九） 陸海空運塞、（一百四十） 陸海空運塞、（一百四十一） 陸海空運塞、（一百四十二） 陸海空運塞、（一百四十三） 陸海空運塞、（一百四十四） 陸海空運塞、（一百四十五） 陸海空運塞、（一百四十六） 陸海空運塞、（一百四十七） 陸海空運塞、（一百四十八） 陸海空運塞、（一百四十九） 陸海空運塞、（一百五十） 陸海空運塞、（一百五十一） 陸海空運塞、（一百五十二） 陸海空運塞、（一百五十三） 陸海空運塞、（一百五十四） 陸海空運塞、（一百五十五） 陸海空運塞、（一百五十六） 陸海空運塞、（一百五十七） 陸海空運塞、（一百五十八） 陸海空運塞、（一百五十九） 陸海空運塞、（一百六十） 陸海空運塞、（一百六十一） 陸海空運塞、（一百六十二） 陸海空運塞、（一百六十三） 陸海空運塞、（一百六十四） 陸海空運塞、（一百六十五） 陸海空運塞、（一百六十六） 陸海空運塞、（一百六十七） 陸海空運塞、（一百六十八） 陸海空運塞、（一百六十九） 陸海空運塞、（一百七十） 陸海空運塞、（一百七十一） 陸海空運塞、（一百七十二） 陸海空運塞、（一百七十三） 陸海空運塞、（一百七十四） 陸海空運塞、（一百七十五） 陸海空運塞、（一百七十六） 陸海空運塞、（一百七十七） 陸海空運塞、（一百七十八） 陸海空運塞、（一百七十九） 陸海空運塞、（一百八十） 陸海空運塞、（一百八十一） 陸海空運塞、（一百八十二） 陸海空運塞、（一百八十三） 陸海空運塞、（一百八十四） 陸海空運塞、（一百八十五） 陸海空運塞、（一百八十六） 陸海空運塞、（一百八十七） 陸海空運塞、（一百八十八） 陸海空運塞、（一百八十九） 陸海空運塞、（一百九十） 陸海空運塞、（一百九十一） 陸海空運塞、（一百九十二） 陸海空運塞、（一百九十三） 陸海空運塞、（一百九十四） 陸海空運塞、（一百九十五） 陸海空運塞、（一百九十六） 陸海空運塞、（一百九十七） 陸海空運塞、（一百九十八） 陸海空運塞、（一百九十九） 陸海空運塞、（二百） 陸海空運塞、（二百零一） 陸海空運塞、（二百零二） 陸海空運塞、（二百零三） 陸海空運塞、（二百零四） 陸海空運塞、（二百零五） 陸海空運塞、（二百零六） 陸海空運塞、（二百零七） 陸海空運塞、（二百零八） 陸海空運塞、（二百零九） 陸海空運塞、（二百一十） 陸海空運塞、（二百一十一） 陸海空運塞、（二百一十二） 陸海空運塞、（二百一十三） 陸海空運塞、（二百一十四） 陸海空運塞、（二百一十五） 陸海空運塞、（二百一十六） 陸海空運塞、（二百一十七） 陸海空運塞、（二百一十八） 陸海空運塞、（二百一十九） 陸海空運塞、（二百二十） 陸海空運塞、（二百二十一） 陸海空運塞、（二百二十二） 陸海空運塞、（二百二十三） 陸海空運塞、（二百二十四） 陸海空運塞、（二百二十五） 陸海空運塞、（二百二十六） 陸海空運塞、（二百二十七） 陸海空運塞、（二百二十八） 陸海空運塞、（二百二十九） 陸海空運塞、（二百三十） 陸海空運塞、（二百三十一） 陸海空運塞、（二百三十二） 陸海空運塞、（二百三十三） 陸海空運塞、（二百三十四） 陸海空運塞、（二百三十五） 陸海空運塞、（二百三十六） 陸海空運塞、（二百三十七） 陸海空運塞、（二百三十八） 陸海空運塞、（二百三十九） 陸海空運塞、（二百四十） 陸海空運塞、（二百四十一） 陸海空運塞、（二百四十二） 陸海空運塞、（二百四十三） 陸海空運塞、（二百四十四） 陸海空運塞、（二百四十五） 陸海空運塞、（二百四十六） 陸海空運塞、（二百四十七） 陸海空運塞、（二百四十八） 陸海空運塞、（二百四十九） 陸海空運塞、（二百五十） 陸海空運塞、（二百五十一） 陸海空運塞、（二百五十二） 陸海空運塞、（二百五十三） 陸海空運塞、（二百五十四） 陸海空運塞、

*Syntherisma*

一そへ車れそと  
こまの酒を人たふ

しゝふと也車をもふりつとこれ

とある。じつは、海にまわるといふ人

くわいせつなふくをばなす

可成とある約より三條四年、計、五

振るゑすまゐるゝあゝとんをてきよと

ろくさいせうのしずことはた

まよひの地

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 84





一子一人  
川東助

一、  
とらぬおのれ

一すうろ 妹と

一之木風

一、二の事。又我々の平ね婦を乞ふといふに、  
心へいまいとてさういふやうかう  
可成康ちあらむといひては  
さうの金銀のすき初めたりやう

妹は枕をせん

[illegible]

五

[illegible]

一とある

之河乃者也

一冬より 萩と魚より 月夜に

貴人の方を以て

一竹の市 竹まみ舞の夜衣（二）と也  
定（三）んとし

Illegible handwritten text.

中野のてんや

[illegible]

廟よりして一を道にあら

二、三姉妹 一方あつて、もう一方はあつた。

とあるは早稲と之也

一 佐々木 彦次郎の養子なり

檀とは花の久しに花散る也

一夏のちり

一五并の せきとのとくふくをいふ

一乃公切德 辟喻予之諸天弘之德也

一よりて廻向の文也我所有福業今

世弟過在 乃見佛功德 登廻向佛道

一文の 著者の心得をここに紹介する

三

一、一、 著文の種は、その性質を以て

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

乃又見人云：「道宮不動，向來如。」

よき事にはあつた

一巻の古書

一五  
掛鉄可長

一、父系社會

一塵り身こそ空といふなり

一、いふふふふ 此病誤し、いふふふ といふ

一袖のそと云  
古酒のそと云

一、ついでに  
少半一、二

一、少くとも

一五之り 異名のひりとり板の

父より書くは海内より名を聞かす

何れもその人の心を悔いてゐる

主之公也

220

一俵のきつぎと河にはあやせといふ

人々を驚かす

一足五丁の月や衣毎と

今

一心らゆふ 叶せむるも 叶せぬの

三才圖會

11-11-10 5:45 PM

その昔、徳川将軍の御代に

とくは方々遊歴するの志あり

らするべき方と申す人となほ我々

برای اطلاع و اقدام

7

二  
あひま  
道々ふりかへ

高麗文

二、おきけのふりかへ

一わさじつのか  
ふふふ

二乃乃路之れ せむさるひは

細言の作

いにしへのうた

一もの糸　おろちんものちやうのめ  
それなつちやうのめ　おろちん

一坊院の

一よりすむ 松金すむとすむ

今更思之 但名

一、がとちつとふわい

不念過去

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

23/1/2

一、五、九、四、七、三、六、二、八、十

一、日本の文化

一々を聲に弱くしつゝ書つてらるゝや

ふくろふくろ

一風のふ

一世學不牢固 隨喜切莫忘 注花一食

信解功深の松量に葉無常の心は

下下世に於ても其の意を以て

下野目

一、大井の堀

一、要するに、

著者 新井 清

一、吾人の所 不空

一 門 士 子 之 所 共 知 也

一、（一） 日本、（二） 中国、（三） 印度、（四） 南洋、（五） 西伯利亚、（六） 蒙古、（七） 西藏、（八） 新疆、（九） 甘肃、（十） 宁夏、（十一） 青海、（十二） 四川、（十三） 云南、（十四） 贵州、（十五） 广西、（十六） 广东、（十七） 福建、（十八） 浙江、（十九） 江苏、（二十） 安徽、（二十一） 湖北、（二十二） 湖南、（二十三） 江西、（二十四） 河南、（二十五） 山东、（二十六） 山西、（二十七） 陕西、（二十八） 甘肃、（二十九） 宁夏、（三十） 青海、（三十一） 四川、（三十二） 云南、（三十三） 贵州、（三十四） 广西、（三十五） 广东、（三十六） 福建、（三十七） 浙江、（三十八） 江苏、（三十九） 安徽、（四十） 湖北、（四十一） 湖南、（四十二） 江西、（四十三） 河南、（四十四） 山东、（四十五） 山西、（四十六） 陕西、（四十七） 甘肃、（四十八） 宁夏、（四十九） 青海、（五十） 四川、（五十一） 云南、（五十二） 贵州、（五十三） 广西、（五十四） 广东、（五十五） 福建、（五十六） 浙江、（五十七） 江苏、（五十八） 安徽、（五十九） 湖北、（六十） 湖南、（六十一） 江西、（六十二） 河南、（六十三） 山东、（六十四） 山西、（六十五） 陕西、（六十六） 甘肃、（六十七） 宁夏、（六十八） 青海、（六十九） 四川、（七十） 云南、（七十一） 贵州、（七十二） 广西、（七十三） 广东、（七十四） 福建、（七十五） 浙江、（七十六） 江苏、（七十七） 安徽、（七十八） 湖北、（七十九） 湖南、（八十） 江西、（八十一） 河南、（八十二） 山东、（八十三） 山西、（八十四） 陕西、（八十五） 甘肃、（八十六） 宁夏、（八十七） 青海、（八十八） 四川、（八十九） 云南、（九十） 贵州、（九十一） 广西、（九十二） 广东、（九十三） 福建、（九十四） 浙江、（九十五） 江苏、（九十六） 安徽、（九十七） 湖北、（九十八） 湖南、（九十九） 江西、（一百） 河南、（一百零一） 山东、（一百零二） 山西、（一百零三） 陕西、（一百零四） 甘肃、（一百零五） 宁夏、（一百零六） 青海、（一百零七） 四川、（一百零八） 云南、（一百零九） 贵州、（一百一十） 广西、（一百一十一） 广东、（一百一十二） 福建、（一百一十三） 浙江、（一百一十四） 江苏、（一百一十五） 安徽、（一百一十六） 湖北、（一百一十七） 湖南、（一百一十八） 江西、（一百一十九） 河南、（一百二十） 山东、（一百二十一） 山西、（一百二十二） 陕西、（一百二十三） 甘肃、（一百二十四） 宁夏、（一百二十五） 青海、（一百二十六） 四川、（一百二十七） 云南、（一百二十八） 贵州、（一百二十九） 广西、（一百三十） 广东、（一百三十一） 福建、（一百三十二） 浙江、（一百三十三） 江苏、（一百三十四） 安徽、（一百三十五） 湖北、（一百三十六） 湖南、（一百三十七） 江西、（一百三十八） 河南、（一百三十九） 山东、（一百四十） 山西、（一百四十一） 陕西、（一百四十二） 甘肃、（一百四十三） 宁夏、（一百四十四） 青海、（一百四十五） 四川、（一百四十六） 云南、（一百四十七） 贵州、（一百四十八） 广西、（一百四十九） 广东、（一百五十） 福建、（一百五十一） 浙江、（一百五十二） 江苏、（一百五十三） 安徽、（一百五十四） 湖北、（一百五十五） 湖南、（一百五十六） 江西、（一百五十七） 河南、（一百五十八） 山东、（一百五十九） 山西、（一百六十） 陕西、（一百六十一） 甘肃、（一百六十二） 宁夏、（一百六十三） 青海、（一百六十四） 四川、（一百六十五） 云南、（一百六十六） 贵州、（一百六十七） 广西、（一百六十八） 广东、（一百六十九） 福建、（一百七十） 浙江、（一百七十一） 江苏、（一百七十二） 安徽、（一百七十三） 湖北、（一百七十四） 湖南、（一百七十五） 江西、（一百七十六） 河南、（一百七十七） 山东、（一百七十八） 山西、（一百七十九） 陕西、（一百八十） 甘肃、（一百八十一） 宁夏、（一百八十二） 青海、（一百八十三） 四川、（一百八十四） 云南、（一百八十五） 贵州、（一百八十六） 广西、（一百八十七） 广东、（一百八十八） 福建、（一百八十九） 浙江、（一百九十） 江苏、（一百九十一） 安徽、（一百九十二） 湖北、（一百九十三） 湖南、（一百九十四） 江西、（一百九十五） 河南、（一百九十六） 山东、（一百九十七） 山西、（一百九十八） 陕西、（一百九十九） 甘肃、（二百） 宁夏、（二百零一） 青海、（二百零二） 四川、（二百零三） 云南、（二百零四） 贵州、（二百零五） 广西、（二百零六） 广东、（二百零七） 福建、（二百零八） 浙江、（二百零九） 江苏、（二百一十） 安徽、（二百一十一） 湖北、（二百一十二） 湖南、（二百一十三） 江西、（二百一十四） 河南、（二百一十五） 山东、（二百一十六） 山西、（二百一十七） 陕西、（二百一十八） 甘肃、（二百一十九） 宁夏、（二百二十） 青海、（二百二十一） 四川、（二百二十二） 云南、（二百二十三） 贵州、（二百二十四） 广西、（二百二十五） 广东、（二百二十六） 福建、（二百二十七） 浙江、（二百二十八） 江苏、（二百二十九） 安徽、（二百三十） 湖北、（二百三十一） 湖南、（二百三十二） 江西、（二百三十三） 河南、（二百三十四） 山东、（二百三十五） 山西、（二百三十六） 陕西、（二百三十七） 甘肃、（二百三十八） 宁夏、（二百三十九） 青海、（二百四十） 四川、（二百四十一） 云南、（二百四十二） 贵州、（二百四十三） 广西、（二百四十四） 广东、（二百四十五） 福建、（二百四十六） 浙江、（二百四十七） 江苏、（二百四十八） 安徽、（二百四十九） 湖北、（二百五十） 湖南、（二百五十一） 江西、（二百五十二） 河南、（二百五十三） 山东、（二百五十四） 山西、（二百五十五） 陕西、（二百五十六） 甘肃、（二百五十七） 宁夏、（二百五十八） 青海、（二百五十九） 四川、（二百六十） 云南、（二百六十一） 贵州、（二百六十二） 广西、（二百六十三） 广东、（二百六十四） 福建、（二百六十五） 浙江、（二百六十六） 江苏、（二百六十七） 安徽、（二百六十八） 湖北、（二百六十九） 湖南、（二百七十） 江西、（二百七十一） 河南、（二百七十二） 山东、（二百七十三） 山西、（二百七十四） 陕西、（二百七十五） 甘肃、（二百七十六） 宁夏、（二百七十七） 青海、（二百七十八） 四川、（二百七十九） 云南、（二百八十） 贵州、（二百八十一） 广西、（二百八十二） 广东、（二百八十三） 福建、（二百八十四） 浙江、（二百八十五） 江苏、（二百八十六） 安徽、（二百八十七） 湖北、（二百八十八） 湖南、（二百八十九） 江西、（二百九十） 河南、（二百九十一） 山东、（二百九十二） 山西、（二百九十三） 陕西、（二百九十四） 甘肃、（二百九十五） 宁夏、（二百九十六） 青海、（二百九十七） 四川、（二百九十八） 云南、（二百九十九） 贵州、（三百） 广西、（三百零一） 广东、（三百零二） 福建、（三百零三） 浙江、（三百零四） 江苏、（三百零五） 安徽、

一、  
二、

一以之爲

2

成程とやに敵うてん道とていふとてん

事をすゝめ置る人にて候なり

一毛のきずあり　あのみち

一、王、琴、李、不、延、界、行、也

一、中央黨部

一、生業を以て行はば

一、輪義千郎生年未詳、上安江書

一、子也 廣く内也







一このうゝぬ 耕也

一耕田が 齊民要術に云ふ通り也  
也 耕田は云ふ通り云々云々也

一耕田の 耕院と書ふところ  
も也

一三六六千廿畝 一頃六千七百六十  
畝小千畝千七百廿畝ト号中千畝  
千七百廿畝也

三十二相 仏の才たは勝るお徳也三

十二也

一中勢 三衣の大僧のつる人の夜帳を  
中と云ふ 此の如き也

一神のいしるた 神は地に入るといふを  
地と云ふ也 又いふと云ふと云ふ也  
源氏等の云ふ神は地に入るといふを  
云ふと云ふは地と云ふは地也

一そのいしるたは地と云ふは地也  
と云ふは地と云ふは地也

一このうゝぬ 耕田の事也

一三六六千廿畝 一頃六千七百六十  
畝小千畝千七百廿畝ト号中千畝  
千七百廿畝也

一三十二相 仏の才たは勝るお徳也三

一十二也

一中勢 三衣の大僧のつる人の夜帳を  
中と云ふ 此の如き也

一神のいしるた 神は地に入るといふを  
地と云ふ也 又いふと云ふと云ふ也  
源氏等の云ふ神は地に入るといふを  
云ふと云ふは地と云ふは地也

一そのいしるたは地と云ふは地也  
と云ふは地と云ふは地也

一そのいしるたは地と云ふは地也  
と云ふは地と云ふは地也

一、名をくわくはたしめしむ

一太政大臣の子  
いふに酒言三共持大酒と

今

新中城で南兵は島を居る病入中將

と云ふ

一夫のすゝめを以て 壺井

房(母)のきんぐのり

縦をきく—きくをきく

一、くろきり

青島市立第一高等女学校

一  
子  
子

一、（一） 漢代以降の文藝史

一、あちまゝ  
入道、  
月

次々

一、  
平定縣志

一、五、九、三、七、二

江上之秋

一、日本

一 子 女 之 子 女 也

一、よひ 華子の母也

一、  
不

一 伊人姫君 今更其母之より

 $\frac{1}{2}$ 

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一 中井村の姫君と衣の位の時一

家

一 三才他方より来る金

と云ふ事と

て種々の種を飼ふに及ぶ

しるし

1865-1866

2017年12月24日

なまありあり

一、（此處應有文字）

上は、  
世の成りには、  
一

22/10/2019

足る

一 存心作 宜難及 系物

一 一のふに 宜 氣を重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

名を以て 事物

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

一 一のふに 宜 氣の重くするは月  
ある也

後乃以斯文也

二六五

一秋のそと 長は中家(なかつか)のいせ

一、此等 所為、乃 志士と稱へ

Mr. J. H. Thompson

一、（一） 中へよるもの

一、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

足るは(き)なり

一年のまらむうなぐちやむ

のほろもろに一夜のい

二十一年の所をよへ今うへへて

張之洞

二十市と  
五市

一、一、 十市を不也

此の山に建てるべきは

卷之三

聖光勿論母とありふたふた

新なるものゝやうに人々を救ふ者  
 といふやうな事ゝあらむやうと也

たふさくら　　ふさくら

と又作るといふ事多し中々人知

古學

魚の味

人亦因之而存之

卷之八

わきの倒 花よりさくら

とてを稱ひ、実事を記す外、

る丸のまゝとすゝしをみ

の糖乳母の糖いりとはちみつ入

九

草枕とるを文也

漢氏侯王公之臣

一、不可分割

五

一、二、三

一 ちのちのちのちのち  
木植<sup>ハ</sup>と云

長崎の海軍博物館

*Lophoceros*

一ふの糸  
よそで通すに  
しる

のちのちとて

Handwritten signature: *Wm. D. Owen*

八

一、わがらふ  
世を地をくくくわき

宰相力為延

一  
う  
ら  
け  
う  
ま  
れ  
り

一十斤 十斤 吳寧

一寸落江東

一光臨不誤

一、要之、所記之事、其意、

14

一、中、大、小、道、各、十、種、好、

三

一とろろす ちんちんすすわ

望

一 氏を源氏の文と也

廣字五

一 塞病のゆゑに痰止みそのほか

一、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

小島正之

14th Dec 1965

此中成云々々々々

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

三ノ木ハ一ノ木ノ子ナリ

...

一雪可白來王事

一、く 夫人は昨春の海上で、

し、おとけをとりて、男をさぐると

一書すゝる

五

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、



著しむのてふてふてふてふ

一未  
一未

一、  
入  
今  
方  
之  
人

一三  
竹紋

一、（一） 此の如く

一いつひきは  
きこりてうきう

Handwritten signature: *John W. ...*

一より二まで

一 夜のうきさ  
けきほろろをみよ

益

一、虎之臨方寧如反臨分也

— *Hydrocotyle* *Hydrocotyle* *Hydrocotyle*

ふたまたまふたまたま

一忍可解衆一忍可解衆

今も小舟のそとに君の足跡ありと

更 中 江 上 有 舟 也

美濃新くさの地はるる

کتابت علی بن محمد بن علی

一十二日 火 晴 ぬれそ 打ち 禁煙

金瓶梅書中房事之男子之生

上之也遊前中下

女文不克

一にのみ  
ふ

一、一、大座にむとめさ衣の所

姓より喜文の才高し所衣の志行極

2722

一應之 普愛の音也

一、  
三、  
五、  
七、  
九、  
十一、  
十三、  
十五、  
十七、  
十九、  
二十一、  
二十三、  
二十五、  
二十七、  
二十九、  
三十一、  
三十三、  
三十五、  
三十七、  
三十九、  
四十一、  
四十三、  
四十五、  
四十七、  
四十九、  
五十一、  
五十三、  
五十五、  
五十七、  
五十九、  
六十一、  
六十三、  
六十五、  
六十七、  
六十九、  
七十一、  
七十三、  
七十五、  
七十七、  
七十九、  
八十一、  
八十三、  
八十五、  
八十七、  
八十九、  
九十一、  
九十三、  
九十五、  
九十七、  
九十九、  
一百、  
一百一、  
一百二、  
一百三、  
一百四、  
一百五、  
一百六、  
一百七、  
一百八、  
一百九、  
二百、  
二百一、  
二百二、  
二百三、  
二百四、  
二百五、  
二百六、  
二百七、  
二百八、  
二百九、  
三百、  
三百一、  
三百二、  
三百三、  
三百四、  
三百五、  
三百六、  
三百七、  
三百八、  
三百九、  
四百、  
四百一、  
四百二、  
四百三、  
四百四、  
四百五、  
四百六、  
四百七、  
四百八、  
四百九、  
五百、  
五百一、  
五百二、  
五百三、  
五百四、  
五百五、  
五百六、  
五百七、  
五百八、  
五百九、  
六百、  
六百一、  
六百二、  
六百三、  
六百四、  
六百五、  
六百六、  
六百七、  
六百八、  
六百九、  
七百、  
七百一、  
七百二、  
七百三、  
七百四、  
七百五、  
七百六、  
七百七、  
七百八、  
七百九、  
八百、  
八百一、  
八百二、  
八百三、  
八百四、  
八百五、  
八百六、  
八百七、  
八百八、  
八百九、  
九百、  
九百一、  
九百二、  
九百三、  
九百四、  
九百五、  
九百六、  
九百七、  
九百八、  
九百九、  
一千、  
一千一、  
一千二、  
一千三、  
一千四、  
一千五、  
一千六、  
一千七、  
一千八、  
一千九、  
二千、  
二千一、  
二千二、  
二千三、  
二千四、  
二千五、  
二千六、  
二千七、  
二千八、  
二千九、  
三千、  
三千一、  
三千二、  
三千三、  
三千四、  
三千五、  
三千六、  
三千七、  
三千八、  
三千九、  
四千、  
四千一、  
四千二、  
四千三、  
四千四、  
四千五、  
四千六、  
四千七、  
四千八、  
四千九、  
五千、  
五千一、  
五千二、  
五千三、  
五千四、  
五千五、  
五千六、  
五千七、  
五千八、  
五千九、  
六千、  
六千一、  
六千二、  
六千三、  
六千四、  
六千五、  
六千六、  
六千七、  
六千八、  
六千九、  
七千、  
七千一、  
七千二、  
七千三、  
七千四、  
七千五、  
七千六、  
七千七、  
七千八、  
七千九、  
八千、  
八千一、  
八千二、  
八千三、  
八千四、  
八千五、  
八千六、  
八千七、  
八千八、  
八千九、  
九千、  
九千一、  
九千二、  
九千三、  
九千四、  
九千五、  
九千六、  
九千七、  
九千八、  
九千九、  
一万、  
一万一、  
一万二、  
一万三、  
一万四、  
一万五、  
一万六、  
一万七、  
一万八、  
一万九、  
二万、  
二万一、  
二万二、  
二万三、  
二万四、  
二万五、  
二万六、  
二万七、  
二万八、  
二万九、  
三万、  
三万一、  
三万二、  
三万三、  
三万四、  
三万五、  
三万六、  
三万七、  
三万八、  
三万九、  
四万、  
四万一、  
四万二、  
四万三、  
四万四、  
四万五、  
四万六、  
四万七、  
四万八、  
四万九、  
五万、  
五万一、  
五万二、  
五万三、  
五万四、  
五万五、  
五万六、  
五万七、  
五万八、  
五万九、  
六万、  
六万一、  
六万二、  
六万三、  
六万四、  
六万五、  
六万六、  
六万七、  
六万八、  
六万九、  
七万、  
七万一、  
七万二、  
七万三、  
七万四、  
七万五、  
七万六、  
七万七、  
七万八、  
七万九、  
八万、  
八万一、  
八万二、  
八万三、  
八万四、  
八万五、  
八万六、  
八万七、  
八万八、  
八万九、  
九万、  
九万一、  
九万二、  
九万三、  
九万四、  
九万五、  
九万六、  
九万七、  
九万八、  
九万九、  
十万、  
十一万、  
十二万、  
十三万、  
十四万、  
十五万、  
十六万、  
十七万、  
十八万、  
十九万、  
二十万、  
二十一万、  
二十二万、  
二十三万、  
二十四万、  
二十五万、  
二十六万、  
二十七万、  
二十八万、  
二十九万、  
三十万、  
三十一万、  
三十二万、  
三十三万、  
三十四万、  
三十五万、  
三十六万、  
三十七万、  
三十八万、  
三十九万、  
四十万、  
四十一万、  
四十二万、  
四十三万、  
四十四万、  
四十五万、  
四十六万、  
四十七万、  
四十八万、  
四十九万、  
五十万、  
五十一万、  
五十二万、  
五十三万、  
五十四万、  
五十五万、  
五十六万、  
五十七万、  
五十八万、  
五十九万、  
六十万、  
六十一万、  
六十二万、  
六十三万、  
六十四万、  
六十五万、  
六十六万、  
六十七万、  
六十八万、  
六十九万、  
七十万、  
七十一万、  
七十二万、  
七十三万、  
七十四万、  
七十五万、  
七十六万、  
七十七万、  
七十八万、  
七十九万、  
八十万、  
八十一万、  
八十二万、  
八十三万、  
八十四万、  
八十五万、  
八十六万、  
八十七万、  
八十八万、  
八十九万、  
九十万、  
九十一万、  
九十二万、  
九十三万、  
九十四万、  
九十五万、  
九十六万、  
九十七万、  
九十八万、  
九十九万、  
一百万

環之やんこ

一、五、七、九

一、金、元、明、清、

二不美の 我々并の母の如き也

一わふ事  
文の如君そふきとんの

く我多升君の事と思ふてゐる

とるを一條院とて不文と云ふと云

乙未年八月廿五日  
 王侯の御  
 下

かみなり

一 天を 蒼天と稱すまじりて蒼  
とくは天の體也

一 わろとて 人すやまじりて代  
人わろとて也

一 大に 人つやまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

一 まつとて わろとてまじりて代  
わろとて也

源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一 源氏平家

一、名をあらわす  
二、今にあらはれし事  
三、とてきくことなり  
四、村の奥へあり  
五、とていふ

一欠塘戶院也

一扇より名を割きとて、つゝつゝ  
つゝつゝと也

一川平野

Ching-ching-ching

一丁より多くぬき  
かたき

とめりふきそとめり

一、小作主と地主

わたり

一 地<sup>ち</sup>を<sup>を</sup>く<sup>く</sup>る<sup>る</sup>や<sup>や</sup> 川<sup>が</sup>を<sup>を</sup>く<sup>く</sup>る<sup>る</sup>

二蓮生 文婦生 同蓮生

源氏下多

一かゝるやう  
駕輿下付ひやうきとて

くもさる

一、  
哥之

一、つちのうへに 覆ふべきものはを

今も秋の心は、  
 新そよ風の心

見ふにとも 世の人の心も地一

一ハ鶴より音 如し

一神機妙

一は世にても 我々の世にても

う夢中の意

一乃天乃乃  
一乃後一乃者文乃西

卷之四

一ツ又今とのまなきてハ漢倭院に子兵

那江とちよ通江服の家らや

羅香林

一年は雪の海へ  
くけ

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一五五  
中文のけり今とれ今と

Erinnere dich

清水のふれと

[illegible]

一、二、三、四の  
五

一併とて不立の事  
止々不煩統方便品

一佛乗の法門と舍利弗の得しよまれ

多分此と云ふ竹内洞に

一振了 今よの一振也

一、我之昇平表也

一、愛は愛だ、子思ふ余やして

今も今も

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

ありしと

12 May 1964

サ 三河さるけ、母の乳母を役し田

石

一、二の事あり。又武を以て止む所の

2

一人をわがやうにせよといふのやうに  
せよといふ也

一このまゝ柴 芦の毛を脇糸を

一五子

丁未 丙申

子  
子  
子  
子  
子

1000

昔（き）に、  
たのむ

461

Handwritten signature: *Handwritten signature*

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

わきとく

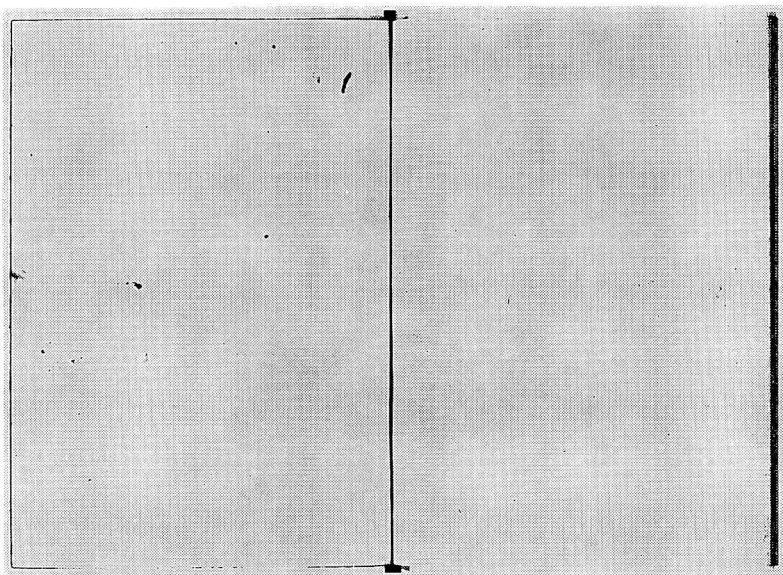
一、系事  
形天不為己也

三

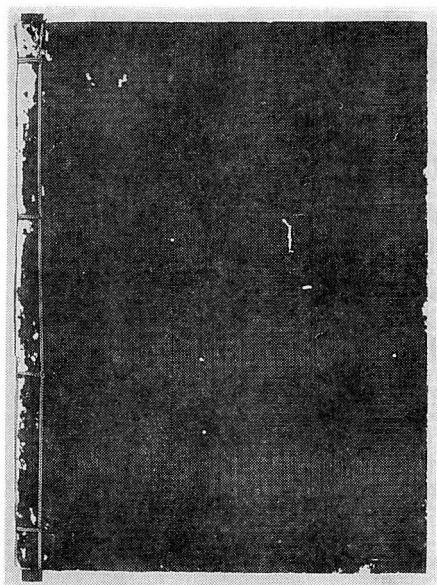
一、此乃  
二、此乃

三條の「おとこ」









## 解題

『狭衣下紐』は狭衣物語の古注の一つとして夙に知られているものだが、その内容や性格については必ずしも全面的に明らかになっているとはいえない。本学図書館は種々の経緯によって狭衣物語関係典籍を豊富に所蔵し、この物語の制作と流布、さらにその解説の努力とその結果としての注釈を総合的に展望するための環境に恵まれていると言ってよいだろう。すなわち、一つの物語が次の、さらに次の時代に引き継がれてゆく時、各々の時代の読者はどのようにそれに向き合うのか、それを具体的な形で追究することが可能ではないかと思われる。

如上の研究の端緒としてここに『狭衣下紐』を影印に付して提供する。それは寛佐の奥書を持つことで「寛佐本狭衣下紐」と呼ばれるもので、『狭衣下紐』の成立・展開上重要な位置を占める一本であると考えられる（注一）。

\*

実践女子大学図書館蔵常磐松文庫本『やいろゝ』(M74314-9)は写本六冊が同体裁で一括されているが、第一冊から第四冊までが狭衣物語であり、第五・六冊が狭衣下紐となっている。全冊一筆である。全体は溜め塗りかぶせ蓋の木箱（縦二十七・八厘、横二十二・〇厘、高十四・八厘）に納められ、蓋に「さころも」と直書きされている。同じ蓋の手前側面に「さころも／元和四年／連歌師 寛佐／書写」の貼紙がある。

第一～四冊の書誌の概略を記す。

江戸初期写、袋綴装、紺色地表紙（金泥にて小松・草花・山等を描く）、料紙楮紙、縦二十七・八糎、横十八・七糎、「岡田眞／之藏書」復廓朱長方印、一頁九行、一行約二十字、

（外題）（表紙中央に短冊題簽、雲・秋草等の文様あり）

さころも一（第二冊以下もこれに準ず）

第五・六冊、すなわち狭衣下紐の部分の書誌を記す。

○狭衣下紐上

江戸初期写、袋綴装、紺色地表紙（金泥にて小松・草花等を描く）、料紙楮紙、法量同前、前後二紙の遊紙を含め九十五丁、遊紙一オ右下に「岡田眞／之藏書」復廓朱長方印、一頁九行、一行約十七字、

（外題）（表紙中央に短冊題簽、桔梗文様）

したひも上

○狭衣下紐下

体裁等上冊に同じ、ただし、五十六丁（後の遊紙に奥書記載あり）、題簽は秋草文様、

（外題）したひも下

（奥書）

本云  
此抄二冊者去年以昌倪所持之本令

書写之今茲又法橋昌琢本按之了

元和四年應鐘朔日 寛佐

本書はこの奥書の示すところに従えば、寛佐が元和三年昌俔所持の狭衣下紐を借り受けて書写せしめ、翌年昌琢本によって校合し十月一日にその業を完了したものである。寛佐は慶長十三年（一六〇八）頃から連歌作者として現われる人物で、多くの作品に名を留めているが、寛永十五年（一六三八）二月五日の昌琢法眼三回忌追善の独吟百韻（京都大学蔵本）を作品の最後にして、寛永十九年（一六四二）に没している。昌琢圈にあった連歌作者であり、狭衣下紐の書写・伝承にかかわるべき立場にあった人物である。寛左がどのような立場でこの下紐を編集あるいは書写したかはひとまず先行研究及び後考に譲り、以下影印によって紹介することとする。

なお、寛佐本下紐として現在所在の知られているものは、本学所蔵本以外に、大阪女子大学図書館蔵本（江戸初期写）、彰考館文庫蔵本がある。

（注一）『狭衣下紐』については次の研究が公刊又は発表されている。

中田剛直「狭衣下紐諸本考」（永山勇博士退官記念会編『国語国文学論集』、風間書房、昭和四十九年三月）

中城さと子「昌叱註から観た狭衣註釈書『下紐』諸本」（『解釈学』第十二輯、平成六年十一月）

長尾佐知子「狭衣下紐諸本考」（平成六年中古文学会秋季大会口頭発表）